東京白楊だより

vol.38
H.27 9.12 (2015)

白楊ヶ丘同窓会東京支部
旧制函館中学校 函館中部高等学校
http://kanchu-tokyo.sakura.ne.jp/

創立百二十周年特集
第38回親睦大会報告
同期会だより

第51期 第64期 第66期
第67期志丸会 第68期よよい会
第71期 第72期さつき会
第79期七草会

随想

『函中と人生』第51期 南河 宏
『「我が青春」旧制中学最後の「どんじり会」』第51期 平野 拓夫
『ゴルフの聖地セント・アンドリュースでプレイ』第61期 金子 公彦
『啄木と見返り美人に憧れて』第73期 大平 博一
『37年の司法生活を終えて』第73期 橋本 昌純
『小葉松先生の思い出』第79期 福島 陽子
『追悼・福津達男君のこと』第51期 三園 比左男

祝
創立
120
周年

会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
日頃より同窓会活動には皆様方のご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
今年は全国的に桜の開花が早く、5月中に台風が7号まで発生し、7月には3個の台風が接近、上陸しました。箱根や浅間山などでは、火山活動が活発になるなど、なんとなく異常気象を連想させ、四季がはっきりしない気候になって来ている様な気がしてしかたがありません。
本年度は10月17日に本校創立120周年の式典が行われます。皆様も色々計画されている事と思いますが、同窓会全体で盛り上げていきたいと思っております。
函館本部からの報告では、皆様のご協力のおかげで協賛金も目標を達成することが出来ました。有難うございます。
今年度の親睦大会は85期が幹事期となり、「今こそ、函館！」をテーマに昨年に続き、講演会を行う予定です。幹事の方々が色々知恵を絞り楽しい会にしようと頑張っておりますので、是非ご出席お願いいたします。
又、今回は全席着席スタイルで企画いたしました。多少狭いかもしれませんが、ご理解いただきたくお願いいたします。
ホームページは少しずつではありますが、活用しやすくするために若い方が頑張っておりますのでアクセスしてください。
3月に母校卒業式に出席し、私が在籍した当時と比較し、1学年の生徒数の少なさ（230名前後）に改めて少子化の問題が如実に迫っていることを実感させられました。東京支部の大きな課題の一つである年会費納入者の減少傾向は昨年も歯止めがきかず悩んでおります。
これからも増々少子化が進むと思われる中、1人でも多くの方に同窓会の魅力をわかってもらえるような会にしていきたいと思っております。
最後になりますが、役員一同なお一層同窓会の発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力そしてご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田康次
67期 昭和40年卒

「旧函館師範学校北方教育資料館」写真提供：67期 吉岡直道氏（函館在住・吉岡写真館）

校長講話

北海道函館中部高等学校
校長 千原 治

白楊ヶ丘同窓会東京支部の皆様には日頃より本校の教育活動にご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。今年は本校創立120周年の年であり、10月の記念式典を始めとした記念事業におきましては、同窓会の皆様のお力添えをいただき、実りあるものにしたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。
今回の「東京白楊だより」の原稿は、去る7月23日に夏季休業前全校集会（以前は1学期終業式と言っていましたが、現在は2学期制ですのでこう呼びます）での校長講話の内容を書いてみたいと思います。校長としてこの場で述べることは、年度当初からの生徒の活躍を称賛し、明日からの夏季休業を有意義に過ごすよう促すことを第一義としていますが、それ以外にも、日頃思っていることや生徒の意気高揚のための言葉などを話の中に織り込むというのが一般的です。今年は次のようなことを話しました。

＊ ＊ ＊

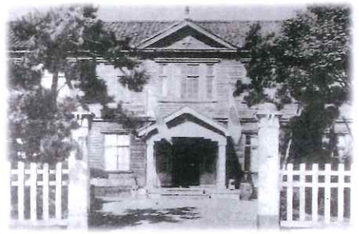
さて、生徒諸君。今年は本校創立120周年です。このことについては、君達は十分に認識していて、今年の白楊祭を「創立120周年記念第66回白楊祭」としたことを校長として嬉しく思っています。
本校は120年の歴史を通してたくさんの優れた卒業生を輩出したことは君達もよく知っていることと思います。今日はちょっと視点を変えて、一人の先生を紹介しましょう。その方は高島小太郎先生です。高島先生は、明治32年に蘭越町でお生まれになりました。小学校高等科を卒業したあと郵便配達員として働き、苦学して小学校准教員試験に合格し、地元の小学校に奉職されました。その後、正教員の資格を取り、さらに中等教員資格検定試験に合格し、旭川中学校教諭を経て本校に赴任されたのが昭和9年でした。以来、函館中学校・函館高校・函館中部高校の教諭として昭和36年の定年退職まで勤務されました。その間、夜間部主事も兼任されました。さらに、昭和40年から60年までは、時間講師として教壇にたたれました。まさにミスター函中とも言うべき先生です。あだ名は「ぼんず」です。旧制中学校の生徒が先生をあだ名で呼ぶことは夏目漱石の「坊ちゃん」を読めばよくわかると思います。そのあだ名のとおり丸坊主で、スマートな体形と光る眼鏡が印象的な先生だったようです。歴史、特に東洋史の授業はとてもわかりやすく、多くの卒業生が尊敬の念をこめて回想記に先生のことを書いています。その高島先生が「創立80周年記念誌」に「函中の校風」と題する文章を寄せられています。これは本校の歴史を知る上でも貴重なものですので、君達にも読んでもらいたいと思います。夏休み明けには全校生徒に配布します。ちょっと長いのですが、函中や函中生を心から愛した先生の熱い思いが伝わってくるすばらしい文章ですので、熟読してください。
その中から一部を紹介します。先生は次のように書いておられます。
「函中の若者はこの『人生をいかに生くべきか』を在学五ケ年の研鑽力行の中に発見し、志を立てて勇躍したのである。志を人生に立てることには、先生方も力を添え、気をはげまし、真の勇気をふるい立たせたのである。積極果敢な勉学の校風は、この志を立てる処からはじまったと見るべきであろう。」
この一節の中心となっている言葉は「志」です。このことについて、もう少し考えて見ましょう。私は「志」という言葉を次のように定義してみました。それは、「自分にとって望ましい生き方・在り方」です。さらに、「志」を考える際に重要なことは「現状」です。現在の自分を客観的に分析することです。「志」と「現状」との差が「課題」です。
人間は「課題」を発見したら、その解決に向けて行動するはずです。それが、やる気・意欲・自発性なのです。私は生徒諸君の自発性を期待しています。そのために、君達に次の二つの問いかけをすることにしています。一つは「君の志は何ですか」、いま一つは「今の君について教えてください」です。この問いかけに対して、今すぐに明確な答ができなくてもかまいません。ただし、自らの答を考えてください。私は君達が自分の頭で考えることを期待しています。

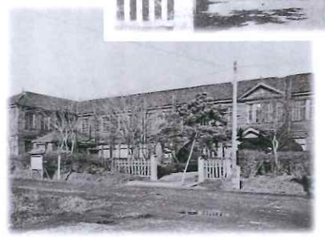
生徒による英語プレゼン

＊ ＊ ＊

私は創立120周年をという節目の年に、生徒には母校の歴史や校風をより深く知ってもらいたいと思っています。そして、たくさんのことを考えてもらいたいと思っています。そのことによって得られる熱情をエネルギーとして、これからの時代を生きていくために必要な資質・能力を身につけてもらいたいと思っています。
現在の教育改革が求めているのは、変化の激しい不確実な知識基盤社会を生き抜くためのコンピテンシーであるといわれています。コンピテンシーとは、知識だけではなく、スキルや態度を含めた人間の全体的な資質・能力です。そのために、「何かを知っているか」から、知識を活用して「何ができるか」の教育のパラダイムの転換が求められています。本校におきましても、これまでの伝統をしっかりと受け継ぎつつ、新しい時代に求められている資質・能力を育てていく教育を行なっていかねばならないと考えています。

家庭科授業





一八九五　函館尋常中学校として創設
一八九九　第一回卒業式
一八九九　中学校令の改正により函館中学校と改称
一九〇一　北海道庁立函館中学校と改称
一九〇六　元町から現在の場所（時任町）に校舎移転
一九一四　創立20周年 校歌と校章が決定
一九四一　新学制の施行により北海道立函館高等学校となる。新校歌と校章決定
一九四五
一九四八　北海道函館中部高等学校となる 男女共学化
一九五〇
一九五二
一九五六　校舎改築工事 鉄筋コンクリート造に
一九六六　大学区制に変更
一九七二　制服廃止により、服装自由化
一九九一　改装工事を開始
一九九三　創立100周年 記念式典を実施
二〇〇三　文部科学省の英語教育推進校に認定
二〇一五　創立120周年記念式典（10月17日に開催予定）

明28　昭31　昭41　昭47　平3　平5　平15　平27

旧制函館中学として発展　太平洋戦争　北海道函館中部高等学校として発展

大3　明39　明34　明32　明28

函中120年

第71期（昭44年卒）
加納元雄

我等が函中は、今年創立120周年を迎えた。

既に120周年記念同窓会名簿を始め随所で触れられているところであるが、母校の120年の歴史を振り返り、その歩みを会報に記したい。

1 創立

函中は、明治28（1895）年4月1日に「函館尋常中学校」として会所町（現在の元町の一部）で開校した。函館尋常中学校には「普通科」と共に、明治19年に開校され函中開校と同時に廃止された、函館商業学校の施設と生徒を引き継いだ「商業専修科」が併設された。

明治32年、第1回卒業式を挙行、中学科7名、商業専修科5名の卒業生を、初めて輩出した。この年、中学校令の改正により校名が「函館中学校」と改称、更に函館商業学校設立に伴い商業専修科が廃止された。

その後明治39年、時任為基氏寄贈の牧草地1万坪（現在地）に校舎を新築。明治34年の「北海道庁立函館中学校」への改称と併せ、これをもって現在の同窓生がよく知る「旧制函館中学」の完成を見たようである。

2 旧制中学の発展

明治末から昭和初期にかけて、旧制函中は順調な発展を遂げた。

この間、校旗・校歌（現同窓会歌）の制定（大正3年）、学級数の増加（大正7年1学年3学級編成に、11年 5学級編成に増加）、父兄会の発足（大正13年）、更には同窓会の創立（大正2年）と、様々な整備が進み、学校としての体裁が整った。

また、函中スピリットを表す言葉として今日まで使われている「白楊魂」も、大正時代初め頃には既に生まれ、定着していたようである。

3 函館中学から中部高校へ

日本は敗戦により学校制度も大きく変更することとなった。最も大きく変わったのは、戦前は小学校の6年間だけだった義務教育が、中学の3年間も加えた9年制になったことである。それまでの函中生は、小学校を卒業してから原則として5年間就学し、更に進学するとすれば、旧制高校や高等専門学校等へ入学した。それが、制度変更により旧制中学在校生は、新制中学と高校に別れることになったのである。

旧制函館中学が中部高校に生まれ変わった経緯を、少し複雑だが時間を追って見てみよう。

・昭和22年4月、新学制による新制中学発足に伴い、旧制函中には新入生なし。在学生のうち2、3年生は「併置中学校」生となる。

・昭和23年3月31日、旧制函館中学廃止。翌4月1日、「北海道立函館高等学校」発足。

・昭和25年4月1日、市内公立普通科高等学校の統廃合により、「北海道函館中部高等学校」として再発足（男女共学、1学年7学級）

この時期に在校されていた先輩は、戦中戦後の社会的な混乱を経験して来られた訳だが、加えて学制変更に伴う学校内の大幅な変化・混乱にも身を置くこととなった。それがどのようなものであったのか、本誌にもいくつかの記事がある。

中でも、昨年の第37号にご寄稿下さった千原治校長の記事は、旧制中学最後の卒業生である第51期生を中心にその前後を分りやすくまとめられていて、学制変更の経緯と当時の学生の気分、更にはそれらを後輩である私たちはどう受け止めるべきかが、示されている。

この他にも、この頃函中で青春時代を送られた多くの先輩の記事があるので、是非バックナンバーをご覧いただきたい。当支部のホームページに貼り付けてあるので、一度閲覧していただければ幸甚である。

http://kanchu-tokyo.sakura.ne.jp/pg95.html

またこの時期、昭和23年に現在の校歌と校章が制定されている。このうち校歌が制定されたのは昭和23年3月で、まだ旧制中学が廃止される前なのだが、新制高校発足の準備の一環として行われたものなのであろう。制度的には旧制が終わってはいなかったが、教師も生徒も気分は「新制」となって、新しい時代を迎える準備を進めていたことが窺われるし、そのようにして新制に移行したことも、時代を超えた「函中」の一貫性を形成した要因の一つであるように思われる。

4 戦後の再発展

戦後の函中は、道内公立普通科高校の中核校の一つとして、順調に発展した。

（1）施設の整備と学級数の変遷

昭和27年から31年にかけて4期にわたる校舎改築工事が行われ、現在地に明治時代に建てられた木造校舎は、昭和30年代から平成の初めごろまでに在校した同窓生にはお馴染みの、鉄筋コンクリート造の校舎へと生まれ変わった。

その後、生徒数増加への対応のため校舎増築（昭和37年～39年）、屋外プール新築（昭和39年）、校舎増改築（昭和51年）、格技場の新設（昭和52年）、屋外プール上屋の設置（昭和59年）等、校舎の整備充実が図られた。

そして、平成3年から5年にかけて校舎の全面改築工事を実施、現在の校舎が完成し、平成5年12月17日に落成記念式典が挙行されている。また

その後も、プールの改築（平成12年）等、施設の整備が継続的に行われている。

この間、当初7学級だった学級数は、戦後ベビーブーマー対応の「応急学級増」により、昭和38年に2学級、39年に更に1学級増加して、ピーク時には1学年10クラスとなった。この「応急学級増」は昭和45年に解消し、1学年8学級編成となっている。その後、昭和53年に1学級増えて9学級となったが、以降は道南地区の若年人口の減少に伴い、平成7年に8学級に、10年には7学級に、そして平成13年に6学級編成に減少して、今日に至っている。

（2）教育の充実

昭和40年までは公立普通科高校を志望する市内在住の生徒は自宅から最寄りの高校1校のみしか受験できない「小学区制」だったのが、昭和41年から全道を8学区に分け学区内ならどの高校でも受験できる「大学区制」に変更、函中は、道南学区のトップ校として道南地方のリーダー的存在となった。（その後48年に全道を21学区に分ける「中学区制」に変更）

この頃、昭和47年に制服が廃止、服装が自由化されている。

平成15年度からいわゆる「ゆとり教育」が開始され、登校日も完全週5日制となったが、一方で「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）」指定校となるなど、教育の質の向上を目指す施策が着実に実施された。SELHiの指定は、平成15年から20年まで、2期6年に及んでいる。このような動きは他にも、「医進類型」指定校指定（平成20年）、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（理科、平成24年）、スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校指定（平成26年）を始め、多数に及んでいる。

5 終わりに

以上、母校函中の歩みを駆け足で見てきた。この間の卒業生は、3万名に及ぶ。3万人の一人ひとりが、それぞれの時代の下で、ここで青春の一時を過ごした訳である。

その中で最も特異な経験をされたのが、旧制から新制への教育制度改革時に在校された諸先輩であろう。前述のとおり、第51期生の様子は昨年の会報の千早校長のご寄稿で垣間見ることが出来るが、ではその数年先輩はどうだったのか。

第48期生は、戦況の悪化から昭和20年に4年間の教育を終えて全員繰り上げ卒業している。

続く第49期生、50期生については、昭和21年、22年に卒業しているのだが、同窓会では何故か一つの期として扱われている。入学も卒業も異なる期が、仮に1年しか違わないとしても、一つの期として位置づけられるというのは考えにくい。また、48期生が昭和20年に繰り上げ卒業しているのなら、49期生、50期生が昭和21年、22年に卒業したのも繰り上げになる計算だが、果たしてそうなのだろうか。

この混乱の時代に遭遇され、実際に体験された諸先輩を始め、当時の経緯や状況をご存知の方に、ご教示戴ければ大変有難い。本来なら、このような記事はまずそれらも調査の上で書くべきなのだが、力が及ばなかった。不出来な後輩の為に一肌脱いでやろう、という心優しい先輩からのご一報を待ちつつ、一旦筆を擱く。

第38回白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会

84期幹事団

第38回 親睦大会報告

白楊ヶ丘同窓会 東京支部

テーマは「函館つながり」

第38回となる東京支部親睦大会は、昨年より約1ヶ月遅い11月8日(土曜)12時より、昨年度と同じ会場(「グランドアーク半蔵門」富士東の間)にて、遠方からお運びくださった方も含め、総勢166名の方々のご出席を賜り、盛大に行われました。

グランドアーク半蔵門

受付の様子

今回の幹事は昨年の83期よりバトンを託された84期(昭和57年卒)のメンバーでした。この大会に集う面々は、年齢や立場は様々ですが、根っこはみんな函館つながり、ということで「函館つながり」をテーマと定め、それに沿って企画を考えました。在京メンバーで話し合う中で、「函館で活躍している84期のメンバーを呼び、函館の現状を話してもらうのはどうか」の案がまとまり、連絡を取り合って、2名の講師をお呼びすることができました。この親睦大会の企画や運営に関わらせていただく中で、まさに「函館つながり」のありがたさ、温かさを実感することができました。

今回は第1部が講演会、第2部が懇親会という2部構成の形をとり、第1部の司会は幹事84期より佐藤公彦氏、吉田雪子氏が担当しました。続いて第2部の冒頭より乾杯まで事務局の78期岡部あさ子氏が担当、それ以降は幹事84期の村山雅美氏が受け持ちました。

第一部 講演会

第1部の講演会は「函館つながり」をテーマに、2人の講師をお呼びし、それぞれご専門の立場から函館の現状、課題、今後の展望について語っていただきました。まず最初の講師は「湯の川クリニック」院長で、函館中部高校で長年数学を教えていらした小葉松先生のお嬢さんでもある小葉松洋子氏です。「産婦人科から見える日本の少子化」というタイトルでお話し下さいました。

司会のお二人
(84期、佐藤氏、吉田氏)

小葉松さん(84期)

小葉松先生とお孫さん

小葉松氏のわかりやすい語り口ながらも鋭く問題点を取り上げた発表に大きな拍手が起こりました。

続いて、二人目の講師の青田基さんが登場。現在、株式会社まちづくり五稜郭代表取締役、株式会社函館アポロ商会代表取締役をなさっています。本業の合間を縫って「教育」や「まちづくり」を主なフィールドとして地域貢献活動に奔走するなど多数の肩書きをお持ちです。「函館事情～最近のまちづくりの様子から」というテーマでお話しいただきました。

第1部は会場手前を仕切って、椅子120脚を用意しましたが、ほぼ埋まり、聴衆はお二人の熱弁に耳を傾け、スライドを眺め、故郷の活性化について真剣に考えるきっかけを与えてくれたお二人の講師に大きな拍手を送りました。

【講演会の詳しい内容につきましては東京支部HP上にて公開しておりますのでご覧ください。】

講演の様子

青田さん(84期)

第二部 懇親会スタート

安田支部長の挨拶

休憩15分をはさみ、(休憩時より受付にて「かなや」のかにめし販売も行いました。)午後1時より第2部がスタートしました。初めに主催者代表挨拶として白楊ヶ丘同窓会東京支部長の安田康次氏より「本日はご来賓をはじめ多数の方にお越しいただき親睦大会を開催できたことに感謝申し上げる」とのご挨拶、そして幹事に対する労いのお言葉も頂きました。

続いて、78期の島津路郎氏のピアノ伴奏、105期小林秀輝氏のリードで同窓会歌を斉唱しました。旧制函館中学入学の皆様に御登壇いただき朗々とした歌声が響きました。その後13名の来賓をご紹介申し上げ、来賓を代表して白楊ヶ丘同窓会幹事長菊池有人様よりご挨拶を頂戴しました。また、函館中部高校の千原校長先生から祝電を頂いたので、披露させて頂きました。

黒田信彦氏の発声で乾杯！

乾杯！

黒田信彦氏(73期)

いよいよ乾杯です。元函館中部高校長であり、白楊ヶ丘同窓会札幌支部長をなさっている黒田信彦様のご発声と同時に、あちこちで祝杯が交わされました。そこで司会進行が岡部あさ子氏より村山雅美氏に代わりました。歓談中には、村山氏より参加メンバーの出身中学の集計結果が発表されました。そのからくりは、あらかじめ受付で乗船カードを模した用紙に出身中学を記入してもらった後、幹事たちが白地図にシールを貼り、集計結果をまとめ、司会を通じて発表するという趣向でした。大方の予想通り、的場中がめでたく1位でしたが、函館以外にも広範囲に散らばっていることが判明したり、意外なつながりが分かったりと、興味深い結果となりました。また、飛び入りで素敵な歌を歌って下さる方が相次いで登場するなど、大いに盛り上がりました。

84期から85期へ

次回(2015年)幹事の85期

やがて宴もたけなわとなり、84期37名(函館札幌組も含む)が登壇しました。代表して評議員(江原)が挨拶しました。「最初は4人の小さな輪だったが、徐々に広がり、函館メンバーの惜しみない協力のもと、何とか本日までこぎつけることができた。函中の絆、白楊魂のおかげである」との内容でした。会場より暖かい拍手を頂き、幹事一同ほっと胸をなでおろしました。そして次回の幹事である85期が4名登壇し、渡邉博幸氏が代表として挨拶。「まだ人数が足りないため、これから連絡を取り、集まりながら、企画を考えていきたい。」との率直なお言葉を聞き、参加者一同、来年の開催も大丈夫だと確信し、大きな拍手を送りました。

校歌斉唱&三本締め

いよいよ恒例の校歌斉唱。全員起立し、島津氏の伴奏、小林氏の指揮に合わせて、音楽部OBOGが壇上に集まり、「火柱の…」を皆思い思いに歌いました。四番まで歌った後、99期の朝緑高太氏が和服姿で登場し、三本締めを威勢よく披露し、午後3時にお開きとなりました。

参加者の方々が帰る際には、函館市の各種パンフレットや函館のレトロな絵葉書セット、画家である84期今井雅子氏の展覧会のパンフレットが入った袋がお土産として渡されました。今回は天候にも恵まれ、事務局の方々の様々なご指導、ご配慮を賜りまして、第38回親睦大会をつつがなく終えることが出来ました。誠に感謝しております。諸先輩方が大事にされてきた白楊魂、函中の絆、函館つながりの濃さに本当に救われました。どうもありがとうございました。

(84期　評議員　江原みちな)

(編集部編)

第38回 親睦大会出席者一覧

平成26年11月8日（土） グランドアーク半蔵門

来　賓

函館市観光部観光振興課長	竹崎太人
白楊ヶ丘同窓会副会長	佐藤眞紀夫
白楊ヶ丘同窓会幹事長	菊池有人
白楊ヶ丘同窓会札幌支部支部長	黒田信彦
函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部副会長	高橋順吉
函館西高等学校つゝじヶ丘同窓会東京支部総務部長	三村寿雄
函館東高等学校関東青雲同窓会会長	新山春一
函館東高等学校関東青雲同窓会副会長	藤本智志
東京函商同窓会会長	汐谷進
東京函商同窓会幹事長	道下佳拓
函館工業高等学校同窓会関東支部事務局長	本間和吉
函館工業高等学校同窓会関東支部監事	越野徹
函館ラ・サール学園同窓会東京支部支部長	菊地裕太郎
函館ラ・サール学園同窓会東京支部顧問（前支部長）	川原光徳

43期　昭和16年卒　神山茂郎/續豊
47期　昭和20年卒　堀田善和
51期　昭和23･24年卒　小野寺吉彦/竹村元宏/南河宏（秋野）･幸子（夫人）/平野拓夫/三國比左男/村上浩之
52期　昭和25年卒　井上稔/岡川伸/長島康
53期　昭和26年卒　折居忠夫
54期　昭和27年卒　遠藤宏（長島）
54期　昭和21年入　納代鉄也/松田守正/
55期　昭和28年卒　赤澤高/阿部健/加藤冨蔵/香西慧/栗崎健一/河村和子
56期　昭和29年卒　加藤正秋
57期　昭和30年卒　椎名三五/川口千代（大島）/隈井薫（進藤）/小竹嘉子（滝田）
58期　昭和31年卒　坪田憲俊/藤原正樹/永野巌
59期　昭和32年卒　笠原静雄
60期　昭和33年卒　長正太郎/内藤尚/松村文俊/松田栄美子（木下）/宮川満子（成田）/山根信子
61期　昭和34年卒　加藤紀興/金子公彦/菊池紀邦/畑中万弘
62期　昭和35年卒　石原雄一郎/大味勲/打田恭子（石坂）/
63期　昭和36年卒　中村崇/山崎良英/依田洋次/石崎篤子/土橋道子（山本）/橋本釉子（守谷）
64期　昭和37年卒　佐々木京子（中村）
66期　昭和39年卒　石岡芙美子/原恵子（西尾）
67期　昭和40年卒　岩間昌夫/加賀幸彦/小山憲一/相馬研二/高木隆弘/花海吉夫/松田幹夫/安田康次/菊池憲子（西野）
68期　昭和41年卒　木戸正文/白崎淳一郎/大河原綾子（小沢）/田中恵子（笹森）/内藤和明
69期　昭和42年卒　伊東英一/梅田五郎/佐藤一廣/花巻省三/安藤秋子（岩崎）/梅田やよい（上野）/江澤富士代（会津）/金子茂子（庄司）/斎藤裕子（三上）/村尾秀子（平山）/山本陽子（石橋）/横山久美子（熊坂）
71期　昭和44年卒　加納元雄/成田秀信
72期　昭和45年卒　神垣善一/小林繁治/古旗邦夫/松本浩/村田秀樹/佐野香苗（小岡）
73期　昭和46年卒　菅原聡/戸来伸一/山田朗/諸岡明/小野田和子（梅本）
76期　昭和49年卒　白川正広/高野勝弘/平井正夫/高崎美也子（古谷）/
77期　昭和50年卒　小林広武
78期　昭和51年卒　垣坂清/島津路郎/長澤一徳/松田司/若山雅行/岡部あさ子（三浦）/柴山智恵子（相馬）/塚本良子（伊藤）
79期　昭和52年卒　樋口澄則/福島陽子（若生）
81期　昭和54年卒　松永久/常陸千尋（出町）/渡辺由美子
82期　昭和55年卒　清水真/廣田知朗
83期　昭和56年卒　谷口直之/山本宏/田口志保（新沼）/
84期　昭和57年卒　青田基/阿部哲也/遠藤慎一/大植裕司/梶沼寛/亀谷雄朗/日下部朋久/桑村竹則/香田拓/佐藤公彦/鈴木史朗/高野正悟/竹埜正文/田中誠至/仲塚靖史/西川肇一/浜口生/藤田勲/山田修嗣/山田重人/今井雅子/岩瀬チアキ/江原みちな（吉沢）/小葉松洋子/佐藤紅/渋谷ひな子（矢和田）/須田芳子（池田）/高梨しのぶ/高橋祥子/塚越睦美（佐竹）/平野素尚（岡田）/藤田めぐみ/村山雅美/山本亜咲子/吉田雪子（増田）/依田美富士
85期　昭和58年卒　中野大介/渡邊博幸/光安圭子（澤田）/幡谷恵（大久保）
87期　昭和60年卒　荒谷修司/末永健/古川祥司/熊谷志麻
96期　平成 6年卒　安間展/長谷川賢幸
97期　平成 7年卒　野村武史
99期　平成 9年卒　朝緑高太
105期　平成15年卒　小林秀輝
108期　平成18年卒　山本晃平
109期　平成19年卒　藤村完

写真撮影班：松田幹夫（67期）山田朗（73期）黒瀬恵子（83期）藤村完（109期）

同期会だより

第51期　三國　久左男

「あずまし会」を解散して1年半、そろそろフレンドシックになったのだろうか。ある会合で会った小野寺君の「少人数でも会いたいなぁ」との問いかけに、少人数でも集まる会を開こうと声かけし、親睦大会に合わせて同期の懇親会を開くことにしました。

今回は小野寺、竹村、南河夫妻、平野、村上、小生の7人が、親睦大会に参加。集まった会員の近況などを同期会だよりとして掲載します。

竹村　元宏

今回近況を書いて、前回の近況を見たら同じ事を書いていた。今も5年前と同じ事をしています。5年前との違いは菜園に少し熱心になった事です。今年の夏インゲンは花が咲いても実がなりませんでした。暑過ぎると花だけ咲くのだそうです。温暖化は、想像もつかぬ処まで進んでいるのでした。

南河　宏

6月30日札幌駅地下街居酒屋「甚平」できらく会へ参加。岩闘、井上、栗原、島川、嶋谷、富高、藤井に私共で、よく飲みよくしゃべりました。

8月はじめ、家から絵具を車に積み込んで、妻の運転で700Km、青森へ。フェリーで函館着、10日間駅側の安ホテルへ。毎日、西埠頭と弁天の入船町の港への写生に通いました。函館の海と山はいい画材です。

村上　浩之

竹村さんより今回の同窓会（ミニあずまし会もかねて）のお誘いを受けて即答で出席を了解しました。先日の日経新聞で、函館市の過疎化の状況を、ひと頃の34万人の人口が、今では27万人で2割減の過疎都市となり、25年後には17万人と推計されるとありました。

元気になる一助、みんなと語り合えればと思います。

小生は、現在の仕事をあと二年続ける積りですが、連絡先が変わっておりますのでご注意ください。

第64期　小林　信

第64期、第38回同期会を兼ねて周防・長門路を往く

東京方面お世話役から依頼があり、函館から寄稿させていただきます。

まず、どうして遠い西国、山口なのかを説明しなければなりませんね。

2年前の同期会反省会において、山口県から毎回ご参加のI君から、『山口で開催したい、みんなで来て欲しい』と手が挙がり、同席者全員「行くぞ～」とはなったが酒席でのこと、事務局預かり案件としたが、翌々年の開催地が未定であった事もあり、有難い開催地の立候補を無駄にする訳にはいかない。

I君には開催地の地元お世話役として、まず、「やっていただきたい事項一覧」を送付した。翌年の同期会開催案内（開催地・定山渓）においてアンケートを採った所、46名から「行くぞ～・出来れば行きたい・興味有る」との回答、話半分として25名前後のご参加は確実と読み、山口開催を実現すべく諸準備をスタートさせた。

I君から福岡を発着地とした二泊三日の『第38回同期会、兼・おいでませ周防・長門、語らいのバスツアー』と銘打つた案が提示され、世話人に諮り平成26年9月10日に山口で開催することを決定、さっそく函館から最も安価なパック商品を探し出す行動を開始した。…あった、福岡一泊付きで、この金額で帰ってこれるの？と云う商品が。

一方、I君との間では数十回にも及ぶ細部の確認作業を繰り返し、且つ、函館以外の方の交通手段も熟考し、六通りものご参加パターンを選択できる開催案内とI君手作りの13頁にも及ぶ小冊子「おいでませ／周防・長門、名所旧跡案内」を併せ、（開催日の）5ヶ月前に発行した。…早めに送付するという事は、返信を待つ立ち場にとっては長かった。

返信締め切り日の十日前からドドッと『参加に○表示』が到着、合計35名（内、妻3名含む）ものご参加により開催されることとなった。

待ちに待った開催日9月10日

第一次集合場所とした福岡空港に各地から続々参集、I君も出迎えてくれて笑顔・笑顔の30名、三日間を利用する貸切バスで一路山口・湯田温泉へ。車中では冷たい飲み物が準備されており、早くも同期会の雰囲気醸成開始（バス空間を占有する事で更に高揚する一体感）、瞬く間に到着（してしまい）、現地集合5名を加え同期会スタート。

私共の同期会は回を重ねる毎に、「性別は全く関係なしで、だれとでも喋り会える会」となっており、当日の式次第にあるのは「逝去者（45名）への黙祷、校歌斉唱」のみ。

個々の近況報告等は全くなし、とにかく売りは『笑顔と和やかな雰囲気での、お喋りと食事』、締めは当時の学生帽を被り羽織袴の（自称・応援団）K君音頭によるオールメン拍手と校歌斉唱。

未だ喋り足らず・飲み足らず、定員5名の部屋に28名もが押し掛け二次会開始。I君持参の地酒『獺祭（だっさい）』。プーチン大統領の誕生日に安倍晋三首相が贈呈した銘柄『を誉めながら二次会終了。

二日目

喋りながらの朝食を済ませ、同期会のみのご参加2名の見送りを受け、いよいよ男22名・女11名にて『周防・長門バスツアー』スタート。

今日の行程は（山口）瑠璃光寺・五重塔＝太鼓谷稲成＝（島根・津和野）森鴎外旧宅＝殿町通り＝（萩・NHK幕末学園ドラマ、（花燃ゆ）の舞台）松下村塾・松陰神社＝東光寺＝（長門市）湯本温泉。

穏やかな快晴に恵まれたツアー一日目、「西の京」を代表する観光名所・室町時代建立の国宝・五重塔と見事な庭園の瑠璃光寺、三々五々語らいながら日本の美を堪能、鮮やかな朱色の太鼓谷稲成では「狐に奉納した油揚」はどうなるだろうと疑問に思ったり、森鴎外旧宅では案内人の見事な（迷）話術に笑って笑って、どんな説明だったか覚えてなかったり。殿町通りでの掘割りの鯉は、（堀の水源が工場中とのことで少し濁りがあり）色鮮やかな状態で鑑賞できず残念だった。

宿に入り今夕も宴会形式の食事、まだまだ喋り足りない、飲み物（女性用のワインを含む）は今夕も追加・追加となった…同期で語らいながら飲むと本当に旨いんですよ、分かりますねー。

三日目

今日も喋り合いながらの朝食、何を食べても美味しいんですね。

バスツアー二日目、今日は秋芳洞・秋吉台を見学後、新山口駅を経て福岡空港で解散、と云うのが今回のバスツアー原案であった。が、任意参加であるが太宰府天満宮拝観後にI君の慰労会を開催する行程が追加され、（格安パック旅行の一泊を活用して）更に、福岡で一泊することとなった。

今日も穏やかな晴れ、はるか南の海で太古の昔、珊瑚礁だった厚さ千メートルを超える石灰岩の台地・秋吉台、地下空間に広がる日本最大規模の鍾乳洞、訪れることは無いと思っていたが同期会（I君）のおかげで目の当たりにし、（人間の一生と比べようもない）途方もない時間を掛けて造り上げた地球の奇観を楽しんだ。

秋吉台カルスト展望台では「いい年をした、おじさん・おばさん」全員で「山口名物・夏みかんソフト」を一塊となって立ち食い、爽やかな口触りを楽しみながら時を過ごしたが、これにて全員での観光はエンド、新山口駅・福岡空港で降車の方とお別れした後、23名・疲れも見せず太宰府天満宮へ参拝。参道での買い食い、これまた旅の楽しみですね。

二泊三日同行したバスガイドさんとお別れしチェックイン（格安パックの一泊分）、小休憩後、夜はI君の慰労会、皆さん（男15名・女6名の計21名）元気です。慰労会とは名ばかりで（会場もI君に事前に準備してもらった）三日間続けての宴会ですよ。喋って・食べて・喋って・飲んで、あっという間に二時間半、I君は足掛け二年に亘る地元お世話役の任を「こぴっと」こなし、新幹線で自宅の途についたのでありました。

福岡で更に二泊した面々（19名）はまだ体力・気力十分（口・脚・腹、何ら異常なし）、四日目の午前中タクシーを連ねて福岡市内を観光、「楽水園で庭園を鑑賞しながら、お抹茶を一服」なんて想定外の時を過ごし、別れを惜しみながらそれぞれ家路に付いたのでありました。

帰函後ほどなく参加者各自が撮影したスナップ写真が事務局に届き、その後は七百を超える数となった…写っている各人毎に配布する為の仕分け作業、それぞれの場を思い出しながら、また楽しです。

文面にはいただいた礼状、記念写真・前述のスナップ写真送付後、ある方から礼状が届いた。文面には『どの写真も普段の自分よりずっと明るい顔をしており、我ながら驚いてます。やはり友との再会は、何よりの若返りの薬ですね』とのコメントが付されていた。

同期会（が果たす役割）は変化するもの、今後も「心も表情も若返らせる、和やかな語らいの場（認知症の進行を遅らせる効果）」を作るべく模索して行きたい。

 グランドメゾン代々木上原レジデンス
株式会社宮川憲司建築事務所
Environmental Planning & Design
http://www.k-miyakawa-arch.co.jp

志丸会
SHIMARUKAI
東京支部
第67期　昭和40年卒業

第６７期　昭和４０年卒業（志丸会）
●スタジオ撮影/スクールアルバム/コンサート撮影
ポスター＆カレンダー撮影及び作成/音楽CD作成

ご家族の歴史と共に歩んで93年（創業大正10年）
吉岡写真館(有)
〒040-0011　北海道函館市本町30-25
☎:0138-52-0634(代)　FAX:0138-55-9286

火ばしら会
東京支部

昭和42年卒業
69期

株式会社イコー建設
一級建築士事務所
代表取締役　佐藤　一廣（69期）
〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1　野方会館2F
電話：03（3223）0168㈹　FAX：03（3223）0658
mail：k-sato@f-rn.co.jp

第66期　石塚昌子

「祝古希 第36回函中66期同期会」が平成27年6月20日～21日千歳市支笏湖丸駒温泉旅館で開催されました。

今回の集まりは、「祝古希」と共に、「函館に66期同期会事務局を置いて開催してきた同期会に終止符を打つ」記念すべきものです。

北は北海道各地から南は四国の愛媛県まで全国から集まった51人の出席者に(欠席者の差し入れは九州の福岡県からも有り)、恩師の土井(南)時久先生をお迎えしての開催でした。

土井先生が出席される時は恒例となった、研究資料付きの講義も今回が最後になります(今回は挨拶と近況報告を兼ねた講義資料の説明に止められました)。

20日午後5時から、集合写真撮影、総会、懇親会、懇親会二次会と続き、昭和39年に函中を卒業してから51年の長い歳月を感じつつ夜が更けるまでのひと時を過ごしました。

話を楽しみ、温泉を楽しみ名残は尽きませんでしたが、翌朝10時に会場の旅館で解散です。解散前早朝の支笏湖クルージングや、解散後の支笏湖畔散策のオプションも企画されていて、支笏湖での思い出がそれぞれに人生のひとこまとして残ったことでしょう。

ただ、昨年まで元気だったのに、今年の古希同期会を迎えることができなかった仲間がいることを知り、現代に至っても「古希」と言うことばの重みと現実を感じさせられたところです。

また、今回の同期会の配布物に「歓迎ミニコミブック」がありました。内容は、「函中時代の思い出・函館に関すること・近況報告等々」で青春時代から70歳に至るまでの人生いろいろを皆で綴ったもので、心にジーンと来るものがありました。

さて、函中66期同期会は来年度からはどうなるのでしょうか?

今年度末で、同期会としての事務局が無くなりますが、メールや人づての連絡網等の事務的に簡素化した方法を考えて、来年は名古屋地区で企画しようという声が、すでに地元在住者から上がっています。

これからも各地域で、また身近な仲間で…と形は異なってもそれぞれに集まりは続くものと思っています。参加可能な人達の後押しで、いつまでも66期の輪が繋がって行くことを願っています。

第67期　志丸会　西堀元朗

志丸会の、遠くにいる友達を訪ねる会は、海外・国内を含め9回目になります。今回は、愛知県豊橋市に居る滝沢さん(英語の松村先生のお嬢さん)を訪ねる旅です。参加したのは、函館、東京、札幌から合計16人でした。期間は平成26年11月15日からの2泊3日です。

15日はお昼すぎにJR名古屋駅に集合し、市内の「徳川美術館」と「ノリタケの森」を見学しました。「徳川美術館」には尾張徳川家が代々使用していた調度品(いわゆる大名道具)や、膨大な量のお宝が展示されていて、国宝「源氏物語絵巻」なども見ることができました。

「ノリタケの森」は、陶器文化を総合的に感じることのできる複合施設で、「ノリタケミュージアム」で過去100年間に製作され、主として海外に輸出された豪華な食器などを見学しました。

夜は同期会最大のイベント、宴会です。今回は函館からプロの写真家吉岡君が参加しているので、記念の集合写真を撮ってもらいました。

16日は、名鉄電車で名古屋市郊外の犬山市へ向かいました。犬山駅からは、江戸時代の風情を残す旧市街を散策しながら犬山城へ。このお城は、織田信長の叔父、織田信康が室町時代に建設したもので、天守閣が現存する最古の様式の城として有名です。お城は小高い山の上にあり、天守閣からの眺めは絶景でした。

昼食に、名古屋名物「みそカツ定食」を頂いて、午後は明治村へ行きました。明治村は昭和40年開設で、明治期の価値ある建築物を全国から集め展示している広大な野外の博物館です。

全部を見ようと思ったら1日かけても回り切れないほどの規模で、村内には乗り降り自由のバスまで走っています。ここでは、明治の偉人ゆかりの建物を歩いて巡るガイドツアーをお願いしました。案内してもらったのは、夏目漱石が住んでいた家、西郷隆盛の弟の西郷従道(つぐみち)邸、学習院長官舎などのほか、明治天皇と皇后が使っていた御料車(列車)や、札幌電話交換局(明治村に最初に移設が決まった建物)なども見学しました。

二日目の夜の宴会は、ゆったり飲める3時間飲み放題の居酒屋で行いました。ここには吉岡君の息子さん(名古屋在住)も参加しました。彼は、ベースのジャズ奏者で、14日に1日早く名古屋に入った函館からの参加者の皆さんは、その日の夜、名古屋で彼の演奏を聞けるという「オマケ」もあったそうです。

終わってみれば、あっという間の2泊3日の旅行でしたが、少しは見聞を広め、そして後は、飲んで、飲んで、

しゃべって、しゃべって、しゃべって、のいつも通りの志丸会の旅でした。

今年は、いよいよ我々も数え歳で70歳。札幌では秋に「古稀の会」の開催を計画しています。函館では函中創立120周年の行事もあり、また我々の卒業50年という節目の年でもあります。皆様それまで元気に過ごして、またお会いしましょう。

第68期　よいよい会　木戸正文

120周年記念行事が平成27年に行われるにあたり、同期の著名人を紹介してほしいとの依頼が事業本部からあった。

たしか第68期(昭和41年卒)は東大現役4名、北大医学部トップ合格など市内L高を上回る実績であったとの話を聞いていたので会員名簿を基にネットで検索してみた。

最初に検索したのが今井浩三君。平成25年秋の叙勲で紫綬褒章を受けたとの記載があり驚いた。札幌医大学長・東大医科学研究所付属病院長を歴任していたことは聞いていたが、迂闊にも今井君の受章を見落としていたようだ。早速、他の幹事に諮り遅まきながら祝賀会を新宿三井倶楽部で開催することにした。当日(平成26年11月1日)は急な案内、三連休の初日(旅行を計画の人もいた)と生憎の雨にもかかわらず20名ほどが集まってくれた。

札幌からも田辺文彦君がお祝いに駆けつけてくれ、札医大時代は第一外科に所属、第二内科の今井君と共にタッグを組んで仕事をしたとの話等々から始まり、祝賀ムードを盛り上げてくれた。また三年時担任の樋口隆士先生(札幌市在住)から高校時代のエピソードを交え叙勲のお祝いのメッセージを頂き、同組の渕沢泰明君が代読をした。山本晴義君の「フレーフレー函中、フレーフレー今井」のエールのあと、今井君から人生の重要な節目々々(高校、大学、国内外医療現場等々)に出会った人々から助言や励ましを頂き、幸運にも今に至った。お力添え頂いた多くの方々に感謝の気持ち一杯である旨の話があった。

卒業して、はや50年近く、よもや東京で同期の者が集い叙勲の祝賀のひとときを過ごすことができるとは考えもしなかった。こんな機会を与えてくれた今井君に感謝と益々の健闘をお祈りしたい。

毎年1月と6月に例会を開催している。1月は日暮里の「アルハムブラ」でフラメンコとスペイン料理を楽しんだ。6月は「新潟うまいものツアー」と銘うってバスツアーを利用し実施した。当日、上野・新宿にそれぞれ集合。湯沢いちご村、南魚沼の民宿上田屋の山菜たっぷり蕎麦の昼食、苗場酒造(見学・試飲)、越後浦佐毘沙門堂、そして当日は越後湯沢温泉で一泊。夕食は和洋中バイキング・ズワイガニ食い放題であった。カニについてタラバ派、毛ガニ派、ズワイ派個々それぞれ一言あるようであるがとにかくトレイ(皿ではなくお盆)が カニの殻で瞬く間に一杯になった。ご飯は魚沼産コシヒカリである。皆さん食欲旺盛、健康である証拠。翌日は魚沼の田園地帯を通り抜け、見附市イングリッシュガーデン、寺泊でノドグロ、ハタハタ、赤エビ丼の昼食の後、寺泊漁港市場で買い物、函館朝市のような水産物の土産物屋が連なる。続いて燕市の洋食器屋に立ち寄り帰途に着いた。今回は日本列島縦断約600キロのバス旅行であった。

次回は来年1月に例会を開催予定。ご案内はメールでお知らせしております。木戸宛お問い合わせいただければ幸いです。(icb10806@nifty.com)

第71期　加納元雄

今年の71期は、昨年に引き続いて舟遊びに繰り出した。

と言っても昨年の屋形船から大分「昇格」して豪華クルーザー。

実は昨年の同期会でリクエストがあった「はとバス観光」を考えたのだが、自分たちの好みの見学先や時間帯を実現するには、相当前から準備を始める必要があることがわかり、今年は断念。たまたまはとバスのパンフレットに載っていた東京港内クルージングを希望する声があり、実施の運びとなったのである。

6月20日、クルーザーの出航は夕方4時半頃なのだが、万一遅刻が出てはい

株式会社 計画機構一級建築士事務所
■建築設計・コンサルティング
alpha Conservatories Ltd.
■ガーデンコンサルティング ■英国コンサバトリー設計、施工
株式会社 アルファコンサバトリーズ
創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計
代表取締役　山田　朗（73期）
180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインプレックスSA
TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960
http://alpha-it.co.jp/　E-mail:info@alpha-it.co.jp

第71期東京地区同期会
紙面への広告募集!!
「東京白楊だより」第39号・2016年9月発行予定
お問い合せ・申し込みは kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp

函中同窓会で検索 http://kanchu-tokyo.sakura.ne.jp/ https://www.facebook.com/kanchutokyo

けないと集合時刻を3時半に設定。定刻には今回の参加者20人が全員揃う。待合室で1時間以上もどうやって過ごすか、幹事としては気をもんだが、案ずるより産むが易し、近況報告やら昔話やらを周りの連中とがやがややっているうちに1時間はあっという間に過ぎて、ハープの生演奏に送られながらいよいよ乗船。個室のパーティルームに案内され、船の離岸を待ちかねて乾杯を行う。後は料理に舌鼓を打ちつつ、デッキに出て変化の果て無い東京港ウォーターフロントを眺め、ピアノの生演奏を楽しみ、2時間はあっという間に過ぎる。

幸い、船酔いゼロ、ほろ酔い多数で下船し、「サンセットクルーズ」は無事終了したのだが、夏至間近の6時半は「サンセット」には程遠く、宵闇に包まれるまでの一時の隠れ家を求めて、都心へと移動した。

さて来年だが、3月に函館まで伸びる新幹線に一度は乗らねばならぬとの思いがあり、函館に新幹線で乗り込んで、大々的にやろうということになった。ただ「新幹線に乗りたい」では子供じみているし、新幹線に乗らない人にも広く声をかけるには大義名分が欲しい。そこで「函中入学50周年」という、いささか無理筋のテーマを掲げ、東京支部会員や函館在住者に限らず広く声をかける。時期は、開通当初の春先からトップシーズンの夏までは混み合うので、少し空いてくる10月頃。

と、夢は膨らむのだが、新幹線の手配、函館勢との連絡調整、函館でのイベント等々、やるべきことは多い。どうやらはとバス観光どころではない準備が必要なようなので、直ぐに取り掛からねばならないようだ。

と言う訳で、「じゃあ手伝ってやるよ！」という人が現れるのを心待ちにしている。「幹事団」を結成して、ワイワイと準備を進めて行きたいと思っている。

第72期　さつき会　大森もと子

私たち72期は、毎年五月第三土曜日に集まるので「さつき会」と称しております。

昨年は「劇団ポプラ座」を立ち上げ、これまで何気なく唱ってきた校歌の内容を深く味わうシナリオにより、自前で演劇を楽しみました。

そして今年は、何と「大喜利」を企てました。この日お天気も、まずまずで幹事は胸をなでおろし、屋形船に乗り込みました。「さつき会」には例年、近県はもとより札幌、函館、神戸からも参加者があり、今年は44名でした。

浅草橋から船に乗りこみ始まった第一部は、メンバーの一人が青森転勤の折に始めたという津軽三味線。人前で弾くハメに陥るとは…と汗だくになりながらも、やんやの喝采を浴びました。

そして第二部は件の大喜利。誠に芸も達者でありますが、とことんやらなくては気のすまない函中気質とでも申しましょうか！その内容たるや、共に居たあの時、あの場所、あの出来事を知っている者たちにだけ通じるネタが満載、一種の共犯者（?）としての、その笑いは濃密であり、若かった時の故郷を思うせつなさも相まって同席した者が一つになったのでした。

又、司会者　渡部さん手書きの寄席文字は本格派、出演者の芸名は笑いを誘う傑作ぞろい。さてひとしきり沸いた後は各々近況報告をしながらの食事となりましたが、この時一枚のコピーが配られました。それは北海道新聞昭和42年3月18日の夕刊でしたが、ここには私たち72期の中部高校合格者が発表されていたのです。忘れていた合格の日を思い出し、皆夢中になりました。ただただ名前が並んでいるだけの文字の中から函中時代がたちのぼり、口々に互いの名前や同じ中学の一群を発見しては声をあげて大喜び。ある時間を一緒に過ごした後、名前は記号ではなくなる事の証明でした。ユラユラゆられて二時間の船遊び、この後銀座での二次会へと突入致しました。

そんなこんなで終了した今年の「さつき会」、来年は何をやらかすのでしょう。

2014年は「演劇公演」、2015年は「屋形船と大喜利」…
さて、2016年の「東京さつき会」はどうなる？？

72期(S45年卒)東京同期会「東京さつき会」
来年の例会は‥‥2016年5月21日(土)17時より

(広告協賛)新宿御苑前　渡部総合法律事務所　電話03-3355-5415(代) ／ 72期東京幹事

第79期　七草会　片山範之

平泉ツアー　2014

【1日目(10月25日)】

1. いざ平泉

いよいよ恒例の同期ツアー！今回は世界遺産「平泉」に温泉宿泊大広間宴会付という、バブル時代の社員旅行を彷彿させる企画で実施させて頂きました。

参加者は、地域別では東京から9名、仙台から2名、弘前と函館から各1名の計13名（急用で2名欠席）、男女別では男子5名・女子8名という女子が過半数を占める人数構成となり、男子にとってはなんとも血湧き心躍るツアー‥いざ出発です。

当日は一ノ関駅に12時集合とのことで、東京からの出発組は「やまびこ43号　東京（8時48分）」に乗車。もちろん幹事は早めに集合してアルコールと肴の買出しをし、朝9時前からではありましたがツアーの成功を祈念し「カンパーイ！」‥‥そうこうする内に一ノ関駅に到着！同期と飲んでいる2時間半はあっという間で、話題も過去と同じ話を何回も繰り返しているだけなのですが、とにかくあっという間で、さらに大量の酒もあっという間でした。それでは本日最初の観光地の日本百景「猊鼻渓（げいびけい）」に紅葉を拝みにGO！

2. 猊鼻渓（げいびけい）

猊鼻渓では「舟下りをしつつお弁当を食べ紅葉を楽しむ」という豪華3点セットを満喫！（男子はビールも飲みましたので豪華4点セット）

透き通った水と100mの壁岩、ちょっと贅沢な水辺の時間を過ごさせていただきました。

3. 幽玄洞（ゆうげんどう）

さて、舟下りのあとは幽玄洞という鍾乳洞へ。11人が一列の隊列を組み、もし今BGMで「レッツキッス」でもかかったら、今にも全員がフォークダンスを踊りだしそうな距離感の中、一気に岩の中へ突入し、ウミユリや三葉虫などの化石を見学‥なんか地学しました。

4. 平泉温泉‥ホテル武蔵坊到着

初日のメインイベント会場、ホテル武蔵坊に16時到着！部屋は男子5名で1部屋、女子は8名で1部屋ですが、1部屋が30畳ほどの広い部屋のため、まさに修学旅行感覚のツアーとなりました。宴会のスタートが18時なので、女子は近くの天台宗寺院‥毛越寺（もうつうじ）へ紅葉見学。男子は早速浴衣に着替えて温泉&ビール&焼酎と、宴会が待ちきれずに大いにはしゃいでいました。

5. 宴会

18時、「函館中部79期様　御席」でいよいよ宴会がスタート！しばらくぶりの「大広間&コの字型会場」で宴会気分が多いに高まり、最初はコの字で綺麗に着席していましたが、そこは大広間、お膳を挟んで指しつ指されつで場所移動し、近況報告やら最近同期同士の会話の中で明らかに出現回数が増えてきた「病気」やら「衰え」に関する話などでそれぞれが熱中し盛り上がり、2時間があっという間に過ぎた一次会でした。

6. 二次会

二次会は20時すぎからホテル内にあるカラオケスナック「たばしね」で開催。スペースが結構広めで、赤いソファーが目に眩しいバブル時代にお世話になった場末のスナックを思わせる作りの中、「浴衣姿で飲み放題&歌い放題」というシニアの心を打つ殺し文句に‥‥さぁみんな！飲むぜ、歌うぜ、踊るぜ！‥‥と、ここで問題発生！

我々「函館中部79期ご一行様」の他に、「地元企業の宿泊ゴルフコンペ組　オジサンだけの20名ご一行様」が登場、スナックを二分してのカラオケ対決となってしまいました。とは言うものの、どちらが歌っても会場全体が大盛り上がり、それはそれは楽しい対決で、和気あいあいに大騒ぎしていましたが。

しかし、やはり対決です。宴とは言え、函中として負ける訳には行きません。タイミングを見計らいエース投入を決断しました。我が期の歌姫‥小林聖子が、とどめを刺すために満を持して繰り出した曲は、ご存じアナ雪「Let it go～ありのままで」‥‥いやぁー参りました、参りました。さすが勝負歌です。あれだけ騒いでうるさかった会場がシーンです。ゴルフのおじ様達はグラスを手に持ったままフリーズです。幹事もフリーズで写真を撮るのを忘れました。それだけすごかったー！冷え込んだ夜でしたが‥もう、少しも寒くない！‥‥熱唱が終わったら大歓声で、ゴルフのおじ様達からは、なんと「おひねり」（総額600円）まで飛んできました。小林さん曰く「歌うたってお金もらったの初めて！」‥‥小林さんがプロになった瞬間でした。

7. 三次会

さて、大騒ぎで体力も消耗したので、三次会は9時半から男子部屋で開催。ビール&焼酎&スナックで出たおつまみのテイクアウトで何やかんやとダベリング‥女子の入浴時間の確保もあったことから10時半に中締めとなりました。

その後は男子は相変わらずダラダラ飲み、しまいには「ラーメン食いてぇな」と言う事になり、もう既に閉店していたホテル内の売店を強引に開けてもらい、カップめんを購入し、部屋でお湯沸かし、5を過ぎてこんなことするのは体に悪いと知りながら‥なんと完食。満腹の中、初日0時就寝でした。

【2日目(10／26)】

8. 中尊寺

温泉なので‥‥翌朝、男子は当然朝風呂&ビールで心地よい一日のスタートを切りました。9時にチェックアウト後、本日のメイン「中尊寺」へはホテルのバスで移動。金色堂をはじめ、本堂や能舞台（小林さーん、アンコールのご指名入りましたぁー）などを約1時間かけてゆっくり散策、世界遺産を皆で堪能しました。

9. 最後に

中尊寺からは平泉駅にバスで移動し、駅で地ビールとアイスクリームを食し、電車で一ノ関駅に移動して、今度はそばとビールと日本酒を食し、とにかく最後まで飲んで食っての2日間でしたが、事故なく怪我人なく、無事昼過ぎに一ノ関駅で解散となりました。

皆さん、大変お疲れ様でした。また、次もツアーで弾けましょう!!

第76期東京地区同期会
(昭和49年卒業)
「あす76会」ゴルフコンペ（1月、4月、7月、10月）
同期の皆さまのご参加をお待ちしています。

七草会
第79期 1977年卒業
HPにて情報発信中
http://chubu79.digi2.jp/

随想

函中と人生

第51期　南河　宏

赤川の飛行場建設に動員され、ヒステリックな陸軍将校にこき使われていた中学3年の夏終戦。堅苦しかった校内が一気に様変わり、野球、ラクビー、サッカー、バスケなどスポーツに花が咲き野球は甲子園へゆく。文芸誌『アンタレス』発行、載せられた詩、句、散文は函館高女にも届いていった。美術部の活動も活発になる。市内の各校の精鋭の作品が並ぶ合同展はちょっとエキサイトする。展示のなかに校舎の廊下の絵で冴えたのがあり、こんな絵描けるかしらと、その女生徒の名前を覚え、気にしていたら、なんと家の裏の女の子とわかり、はじめてことばを交わしたのを覚えている。

十字街近くに函館文庫があり、着衣のモデルを短時間でデッサンするクロッキーの会が開かれていた。函館の画家の田辺三重松、橋本三郎、岩船修三などが中心でわれわれ中学生にとっては別世界のところだった。こんなところで画家の先生方と親しくなり絵を見てもらったり、後に美術学校（芸大）受験のときにはお世話になる。

我が家は学校の裏門すぐのところにあり、汽車通などがあずけた重い剣道着など私の部屋の押し入れにどさっと詰め込んであった。放課後は私がいなくても上がり込んでだべっていく。みんなとの繋がりはどんどん濃密になっていく。その汽車通の吉岡や知内の農家や漁師の家に泊まりがけで行き、浜辺で子供たちが山のように取ってきたウニを食ったり、畑のトウモロコシを嫌というほど食ったのは忘れられない。ラクビー部の彼はイカ釣り船に乗せてもらって翌朝イカを持って帰ってくる。みんな少しずつ大人の世界に入り始めていた。

しばらく遠ざかっていた函中の仲間とは2001年箱根プリンスホテルで、約80名の『どんじり会』がきっかけで会うようになる。2、3年おきに銀座で個展を始めたのもこの頃でパーティは函中の仲間の東京同期会になっていった。絵を買ってくれるスタンダール研究家。いつも著作をくれ、バッハやカミユ、椿姫やハンナ・アーレントの映画の話をする憲法学者夫妻。武満徹のパーカッションリサイタルを聴きながら、外国でこういう幽玄な曲がどう受け取られているのだろうかと話す美大の学長でデザイナー。放送、観光そして北海道現代俳句の重鎮とはちょっとした表現についての便りのやりとりがある。若いときとは違い、心の内面にあることを話せる函中の仲間が少しでもいることは幸福かもしれない。しかし自己の表現様式をまだ模索している85歳にとっては気休めかもしれないが。

「我が青春」旧制中学最後の「どんじり会」

第51期　平野　拓夫

先日暫く振りで芸大の同窓会に顔を出したところ、事務局の人から芸大のエピソード の収集に協力方の依頼があった。毎年30名前後の入学者のなかで、北海道の一つの学校 から一度に四人が入学したことについての話は今でも語り草になっているとのこと。

橋詰展昭（故）、國田祐作（故）、南河宏、不肖平野拓夫の四人である。

51期の連中は、戦時中国家のための教練（銃を担いで行軍をしたり、射撃の訓練等）に力が入っていた。しかし中学3年の時終戦になり、社会も学校も全て一変し、先生も 生徒も進学や新社会に対する見方考え方が全く分からなくなって、逆に生徒は自分自身 で考える以外なかった。つまり何でも自由に出来た。ともすると名門校の厳しくきつい 教育から急変し、全く自由という不安ながらも明るい学生生活が出来た。

そんな中で芸術が好きな者は芸大の受験の勉強を、それぞれ自己流であるが思う存分 行動したことが今振り返ってみるとプラスになったと思う。つまり最高に自由な学校であった。正に「我が青春」に悔いなしである。

ゴルフの聖地 セント・アンドリュースでプレイ

第61期　金子公彦

セント・アンドリュースは、ゴルフ競技の世界的な総本山として知られるイギリス連合王国・スコットランド国・セント・アンドリュースにあるゴルフクラブの名称です。

ゴルフ競技はスコットランドが発祥の地といわれ、15世紀にはイングランドとの権力争いからゴルフ競技を禁止する命令が出されたとか。その当時のゴルフは現在の一般的なゴルフ競技に似たリンクスゴルフと、公園などのグラウンドゴルフに似たショートゲームという2つの試合方法が採用されていた。その後1744年にエジンバラの「ジェントルマン・ゴルファーズ・オブ・リース」という世界初の競技団体が誕生。10年後の1754年にセント・アンドルーにも団体が設立され、それがR&Aです。

全英オープン（ゴルフ）

全英オープン（「The Open Championship」）は、ゴルフの世界4大メジャートーナメント大会の1つであり、イギリスのゴルフ競技団体R&A（ロイヤル・アンド・エンシェント・ゴルフクラブ）主催で、毎年7月中旬に開催される。

4大メジャートーナメントの中で最も歴史、権威のある大会で、イギリス以外では、一般に「全英オープン（ゴルフ）」と表現されているが、正式名称は「The Open Championship」であり全英やゴルフという表現は含まれない。通常「The Open」と呼ばれており、イギリス外では「British Open」とも呼ばれる。

ゴルフをおやりになる方々には、一生に一度はゴルフの聖地セントアンドリュースでプレイ してみたいと思う方が居るものと思います。私もご他聞に漏れず、その中の一人でした。理由は、私の40歳台半ば頃、米国のデトロイトに駐在していましたが、私共の製品のアフターサービスをやってくれていた会社の副社長が英国人で、夏休みにセントアンドリュースはじめチャンピオンコースでのゴルフツアーの計画を立てていました。しかし丁度その時期に運悪く帰国命令が出されて、その計画が没になりました。その時から何時かは行くと心に留めて いました。

セント・アンドリュースには、オールドコースとニューコースの他、幾つかのコースがあります。オールドコースとニューコースは、事前予約が必要ですが、他のコースは空きが結構あり 予約無しでもプレイ出来るようです。私は、初日ニューコース、二日目オールドコースで プレイすることを計画し、日本から予約をしましたが、1年目駄目、2年目も駄目、3年目も駄目でしたが、4年目にやっと抽選に当り予約が取れました。具体的には、プレイの1年前の2013年10月抽選に当り2014年8月20日ニューコース、21日オールドコースでプレイと ということになりました。偶然とは恐ろしいもので、今回のセントアンドリュース行き海外旅行は、私の第100回目の記念すべき海外旅行となりました。

コースは、テレビでお馴染みかと思いますが、映像そのままで、途中では二度と来るまいとも思いましたが、終わる頃には不思議なもので、私はもう一度来たいと思いました。

オールドコースの17番ホールのグリーンの中にあるトミーズバンカー（中島常幸が14打 でやっと出した有名なバンカー）は、現地のキャディーにも日本人をからかうネタになっているようです。因みに私は、運良く3オン2パットのボギーでした。

なお、プレイする際は、ハンディキャップの証明証の提示が必要です。キャディーは男性で 一人に一人付けました。

がキャディーバッグは担ぎです。日本のキャディーとは比べ物にならない程、ゴルフ場の隅々まで熟知し、アドバイスも極めて細かく正確です。パッティングの際の狙い 所の指示は、1センチ単位での指示でした。二日目のオールドコースで分かったことですが、スタートを待っている時に、昨日のキャディーがプレイし、他のキャディーがキャディーをして何組も出て行くのを目にしました。昨日付いてくれたキャディーに聞くと、自分達の勉強の為 という。このようなシステムを持っているゴルフ場は、我国にはあるでしょうか。

私がプレイしたのは、ニューコースとオールドコースですが、他に ザ、キャッスルコース、ジュビリーコース、エデンコース、ストラステュルムコース、バルゴーブコースがあり、全部で7コースもある広大なゴルフ場です。

ゴルフ以外では、エジンバラやロンドンなど、ついでに英国を楽しむことが、出来ました。大英博物館もすっかり綺麗な建物になり、昔は片隅的な所にあったロゼッタストーンも正面のガラスケースに鎮座ましましていました。ギャラリーや寺院、国会議事堂、テームズ川の畔など、昔懐かしく、おのぼりさん的観光をやって来ました。今回は、幸運なことに、エリザベス女王が 避暑地へ行っているということで、素晴らしいバッキンガム宮殿の中へも入れ、衛兵交代の 儀式も近くで見ることが出来ました。

望むことは、無理とは考えず、常に希望（願望）を持ち続けると、必ずや実るものと思います。

オールドコース最終18番ホールの有名な橋。この橋のある付近には、コースを横切る公道があり前日下見に行った時に、記念撮影したもの。奥の左の建物は、メンバー専用のクラブハウス、その右手はホテル。筆者は、向って一番左端。

なお、写真右手のフェンス沿い道路に白い車が駐車しています。白枠で駐車場になっていますが、車の屋根やボンネットにゴルフボールがぶつかった跡が付いている車が複数台あるのにはびっくりしました。

「啄木と見返り美人に憧れて」

第73期　大平博一

私の実家は、大野町（現北斗市）で来年開通予定の新函館駅近くの農家でした。

大野中学校から函館中部高校へは当時「汽車通」と言いましたが、今やファンが多い蒸気機関車で通学しました。入学して同級生に都会的な雰囲気を感じ、また、みんな勉強が良くできることに結構ショックを受けたことが思い出されます。一方、授業中の先生の話題は教科書的ではなく、その時の社会の出来事などを交えたものでしたので良い刺激を受けた印象があります。

当時は、「全共闘」等の学生運動が盛んな時代でしたので私も影響を受けないではおられず、受験勉強が疎かになりました。3年生になってからかなり焦って英語や日本史等とにかく考えるよりも記憶すれば点数が取れる科目に集中して何とか大学に進学できました。

思い出深いのは、1年生のとき、恋をして見事に振られたこと、嫌いな数学の授業で全くノートも取らずにいたら先生から「君は、何という頑な人間か」と言われたこと、進路を決定する試験の結果が学年の下から数えて数番目だったことなど暗いものが多いのですが、不思議と今でもときどき思い出します。

また、今でも役に立っている思い出としては、卒業の際に、五島軒だったと思いますが、洋食のコース料理でマナーを学ぶことも兼ねて送別会がありました。

夜ですので先生方はお酒が入りましたが、最後に、普段は真面目なある先生が「馬鹿になれ～、馬鹿になれ～」と踊り始め、驚きました。また、別の先生は、真っ赤な顔をして、突然「真っ赤

砂町眼科　検索

砂町眼科は安全で確かな知識と技術で、
皆様の目の健康と快適な生活をサポートいたします。

砂町眼科 院長 葛西浩（73期）

一般眼科、眼鏡処方・コンタクト相談、健康診断
東京都江東区　砂町銀座入口・明治通り沿い

スタッフ募集中

〒136-0073　東京都江東区北砂3-1-1フタミビル2・3F
TEL 03-5683-3273　ホームページ http://www.sunamachi-ganka.jp/

かっか空の色、みんなのお顔も真っ赤かっか～」とこれもまた踊ってくださいました。これは社会に出てから宴会芸で使わせていただきました。また、「馬鹿になれ～」は、社会に出てから、怒りで我慢できなくなった時などに頭で繰り返し唱えます。すると、何故か、怒っていることが馬鹿らしくなってきてだんだん冷静になります。その都度、先生、ありがとうございました。」と感謝しています。

勉強の方では授業は苦手でしたが、石川啄木に心酔して「時代の典型として生きる」という啄木の生き方に憧れ、短歌も大好きでした。自分でも「初冠（ういこうぶり）」というノートを作って沢山の短歌を作りました。大学を卒業してからたまたまノートが出てきて読んだら血気盛んな自分と当時の感性を思い出し、特に、感性についてはどうして無くなってしまったのかと思いました。また、浮世絵も好きで、自分で画用紙に見返り美人を絵の具で模写して小脇に抱えて得意気に歩いていました。啄木に心酔するのと見返り美人を色っぽいと感じる感性とは何故か今でも同じものであったように思われます。昭和40年代の函館の街、そして中部高校には、薄暗い中をとぼとぼ歩いている自分と、何故か、将来、屹度りっぱな人間になろうと胸を熱くしている自分がいました。

37年の司法生活を終えて
第73期　橋本昌純

函館中部高校の創立120周年を心からお祝い申し上げます。

私は、高校時代は体操部に所属し、後に中部の校長になられた堂高先生や当時の女生徒にとっては忘れ難い存在と思われる溝江先生から御指導を受けました。

高校卒業後は、体操とは全く縁がなく、昭和53年に裁判官となり、平成27年1月に新潟家裁所長を最後に約37年にわたる裁判官生活を終え、現在は赤坂公証役場において公証人をしております。

裁判官時代、名古屋地裁や東京地裁といった大規模庁の裁判長を務めていたときには、余りの事件数の多さや事件処理の難しさのため、精神的にも肉体的にも厳しい状況に陥ることがありましたが、高校時代に培われた気力・体力が随分と自分を助けてくれました。

また、裁判官として函館と関わることもあり、平成4年から7年まで函館地裁の裁判長をし、平成24年から25年まで札幌高裁の裁判長をしていた折には、函館から控訴されてきた事件を担当し、中部卒の弁護士さんに法廷でお会いすることもありました。

裁判官は、とかく世間知らずと評されますが、東京在住の73期は、小野田（旧姓・梅本）和子さんが同期会幹事、同窓会理事を山田朗君が引き受けてくださる事で、年1回の同期会や同窓会が開かれており、各界で活躍される同期の話を拝聴できることはとても貴重な機会でした。

現在の仕事の公証人とは、法務大臣に任命される実質的な公務員ですが、給与はなく、手数料収入によって公証役場を営む個人事業主です。仕事の内容は、公正証書の作成、会社の定款や私文書の認証、確定日付の付与であり、公正証書としては、遺言や債務弁済契約が多いですが、必ず公正証書でなければならないものとして、任意後見契約や定期事業用借地権設定契約があります。また、株式会社を設立するには公証人の定款認証が必要ですし、外国では印鑑登録制度がなく、私文書の真正を証明するため、外国に提出する文書に公証人の認証を求めるというケースがとても多いです。裁判官の仕事は、紛争の事後的解決でしたが、今後は、公証人として、予防司法のために尽力したいと思っております。

両親が亡くなって以降、函館に帰省する機会はほとんどなくなりましたが、故郷函館と母校中部高校の益々の発展を願っております。

73期の大平君、橋本君は国の機関で勤務後退職し昨年よりセカンドステージに、これを機に思い出す事などを寄稿して頂きました（73期山田朗）

「小葉松先生の思い出」
第79期　福島（若生）陽子

小葉松治先生には、高校三年間担任をしていただきました。

昨年の東京支部親睦大会での講演の演者が小葉松先生のお孃さんとお聞きして、ぜひお会いしたいと思いました。小葉松洋子先生の講演「産婦人科から見える日本の少子化」は、とても興味深いお話でした。スライドで小葉松先生とお孫さんとのツーショットの写真を見ることができて嬉しかったです。小葉松先生の笑顔は昔のままでした。

先生の担当教科は数学です。授業の時には、精神注入棒という新聞紙を丸めたものを持って授業をされていました。黒板で問題を解いていると、「説明が足りない、見通しが甘い」とよくいわれました。

三年生のクラスでは、球技大会の時に黄色いTシャツに先生の似顔絵をアップリケして着ました。先生も同じTシャツを着て応援してくださいました。卒業式の謝恩会で「若い女の子の胸のところで、自分の顔が揺れているのが恥ずかしかった。」と嬉しそうに話されていました。卒業アルバムの寄せ書きの真ん中にも同じものが描かれています。「初志を貫徹せよ」と力強い先生の言葉が横に書かれています。厳しいなかにも人間味あふれる先生でした。

79期はいろいろなところでつながっていて仲の良い同期です。小葉松先生有り難うございました。

―追悼―
福津達男君のこと
第51期　三園比左男

彼を知ったのは、彼の兄の厚君が小中を通じてクラスメートで、しかも厚君の母上のところの習字に通ったからでした。

達男君は昭和25年函館高校卒後、昭和33年まで吉岡小学校で教鞭をとり上京。種々の仕事に挑戦。教え子だった順子夫人と共に苦労を重ねながら、遂に昭和44年建築・内装仕上工事業「創竜社」を設立。その間に武蔵野美大を卒業した努力家でした。

1年上の私は高卒後地元で就職。昭和33年東京勤務となり、道南会があることを知って入会。その親睦会に初めて顔を出した時、いきなり「ミクニさん！」と声をかけてくれたのが達男君だったのでした。

その後、私は転勤などがあり、昭和46年に東京へ戻り中野の社宅に入りました。

そこで達男君を思い出して、創竜社に依頼して冷房装置を取付けてもらいましたが、偶然にも福津宅が青梅街道を挟んで指呼の間にあることを知り、家族ぐるみの交際が始まりました。時々お宅にお邪魔し、順子さんの料理を馳走になりました。特に吉岡産の新鮮なウニと飽の潮汁が絶品で、残った汁を鍋ごと頂いて帰ったりしました（正にスープの冷めない距離だったのです）。

達男君は、上京後、偶然、同級の小泉君に出会ってから竹沢・二上両君等同期の輪を広げ同期会「東京玄羊会」を設立。会の発展ばかりではなく、昭和50年に函中同窓会本部から「旧制・新制合同同窓会」設立の要請を受け、新旧の取りまとめ役となって昭和52年11月白楊ヶ丘同窓会京支部設立に貢献。引き続き役員として終生支部運営に尽くしたのでした。

私は昭和54年名古屋へ転勤の内示があり、息子（新高・新中生）を置いて単身赴任せざるをえず、達男君に父親代わりを頼みました。息子達は達男君と将棋をしたりして懐いていたからです。単身赴任は7年に及びましたが、その間達男君は立派に父親役を果してくれました。

昭和58年頃、立派な体格の順子夫人が病に倒れ、達男君のあらゆる手段を尽くした涙くましい看病の甲斐もなく、昭和59年6月8日に亡くなりました。この日は奇しくも私の誕生日。忘れられません。

私は昭和61年末定年退職予定で家探しをし、現在のマンションを決めたのですが、いざ引っ越しの時、決めていたはずの部屋が替わっていて驚いた。家内が達男君と図って、より良い階の部屋に変え、クローゼット、食器戸棚、息子・達の部屋の棚、空調設備等々狭い部屋をお手のものの内装工事で使いやすく整えてくれていたのでした。

創竜社は交通至便な新宿1丁目「御苑ビル」にあって、10人程の打合せができるスペースがあり、同窓会や同期会等の打合せに気前よく場所を提供してくれたばかりでなく、小さなキッチンで社長得意の料理を提供してくれることがありました。馳走にあずかった方々も多いと思います。中でもカレーライスは絶品でした。平成9年末、御苑ビル改築のために立退くことになった時、新事務所の必要条件に打合せスペースとキッチンを欠かすことができず、平成10年4月同1丁目の「葵ビル」に移転したのでした。

平成2年9月浦和市に住居兼事務所を新築移転し、平成24年創竜社も入りました。

平成19年6月達男君は体調を崩し、検査の結果胃ガンが見つかり、8月に手術を受けましたが患部の関係で完全摘出できず、一部を削って放射線照射を繰り返すことになってしまいました。

当方も老々の状態になって中々見舞えず、道南会で顔を合わせる度に「元気だよ」と言うが、背が低くなっていて心配でした。

平成25年9月の道南会で力強い握手を交わしたが、10月の白楊ヶ丘同窓会東京支部親睦大会には姿がなかった。

今年（平成26年）の年賀状に「肝機能低下のため閉塞性黄疸で緊急入院し、手術5回仲々良くならない」とあって驚く。そして、4月27日。

以前家内が順子さんの墓参りをしたいと言って達男君に連れて行ってもらったことがある。飯能の広い墓地の上の方の広い敷地の中に、順子さんの墓が寂しそうに建っていた。待つこと30年、漸く比翼となれたのだ。大変お世話になりました。ありがとう。合掌

（68期　木戸正文　記）

訃報

憲法論議の真っただ中、奥平康弘さん（第51期）が平成27年1月26日急性心筋梗塞の為、逝去され た。85歳。

1929年函館市生まれ。東大法学部卒。

東大名誉教授、憲法学。東大社会科学研究所教授・同所長。国際基督教大教授などを歴任。

1970年代初めに、情報公開法のモデルとなった米国の情報自由法を紹介。表現の自由はなぜ手厚く保障されなければならないのかと言う問題を追及し、理論的な基盤を築くなど、「表現の自由」をめぐる問題の権威として知られていた。憲法研究者の立場から2004年から大江健三郎さん、井上ひさしさんらと「九条の会」を結成。

弟は故奥平忠志・道教育大名誉教授（地理学）函中第56期。

物故者　謹んでご冥福をお祈りいたします　※年会費払込票及び大会出欠葉書等にて、ご家族からお知らせがあった方です。

◆松本 佶（昭10年卒37期）平成16年11月13日逝去
◆安味 貞和（昭12年卒39期）平成26年4月15日逝去
◆大坪 信一（昭13年卒40期）平成26年1月逝去
◆守田 哲郎（昭14年卒41期）平成26年4月18日逝去
◆家坂 孝男（昭16年卒43期）平成24年1月逝去
◆宇野 浩（昭19年卒46期）
◆中野 一造（昭19年卒46期）
◆山元 盛一（昭19年卒46期）
◆松木 養三（昭20年卒48期）平成26年1月9日逝去
◆佐々木 信博（昭21・22年卒49・50期）平成26年1月逝去
◆網塚 聰（昭23・24年卒51期）平成27年5月12日逝去
◆扇谷 俊雄（昭23・24年卒51期）平成26年6月3日逝去
◆奥平 康弘（昭23・24年卒51期）平成27年1月26日逝去
◆坂口良宣（昭23・24年卒51期）平成26年4月29日逝去
◆鈴木 廣（昭23・24年卒51期）平成26年11月13日逝去
◆南 健（昭23・24年卒51期）平成26年5月13日逝去
◆花田 庄司（昭23・24年卒51期）
◆宮村 慎司（昭25年卒52期）平成26年10月逝去
◆吉川 進（昭25年卒52期）平成26年7月13日逝去
◆菊地 範恭（昭26年卒53期）平成26年4月18日逝去
◆戸崎 正敏（昭27年卒54期）平成26年9月8日逝去
◆保田 恵美子（田辺）（昭27年卒54期）平成26年2月19日逝去
◆栗崎 健一（昭28年卒55期）平成27年2月18日逝去
◆北村 勢津子（昭28年卒56期）
◆反町 金四郎（昭28年卒56期）
◆西田 実（昭28年卒56期）
◆相澤 憲子（昭29年卒57期）
◆東 晋（昭29年卒57期）
◆荒川 良子（昭29年卒57期）
◆神田 洸（昭29年卒57期）
◆篠木 繁男（昭29年卒57期）
◆武田 有弘（昭29年卒57期）
◆飯田 郁子（昭29年卒57期）
◆今井 捷二（昭35年卒62期）平成26年11月逝去
◆加藤 鉱三（昭35年卒62期）
◆藤倉 信子（小島）（昭35年卒62期）平成25年逝去
◆三浦 静子（昭35年卒62期）平成25年逝去
◆渡辺 真邦（昭36年卒63期）平成26年4月19日逝去
◆上野 勝久（昭39年卒66期）平成27年1月27年逝去
◆渡辺 正勝（昭39年卒66期）平成26年3月逝去
◆高木 隆（昭42年卒69期）平成26年10月逝去
◆田中 松男（昭44年卒71期）平成26年逝去
◆若杉 継道（昭44年卒71期）平成27年1月1日逝去
◆対馬 孝蔵（昭45年卒72期）平成26年8月13日逝去
◆酒井 道彦（昭61年卒88期）平成26年7月22日逝去

ポプラ会ゴルフコンペご報告

ポプラ会ゴルフコンペは、白楊ヶ丘同窓会の会員でゴルフをされる方はどなたでも参加できるものです。
年１回開催の年もありましたが、会員の皆様からのご要望があり、ここ数年は、春～夏と秋～冬の年２回開催しております。2014年夏の会の結果は前回の会報で報告いたしました。
2014年冬の第38回および2015年夏の第39回の結果を報告致します。いずれも、個人戦を新ペリア方式で競い合いました。

第38回 ポプラ会ゴルフコンペ

2014年12月2日(火)
東京湾カントリークラブ
参加者；12名

優勝　67期 安田康次氏
2位　71期 成田秀信氏
3位　71期 石橋秀樹氏

寒さもそれほど厳しくなく暖かな晴天に恵まれました。

第39回 ポプラ会ゴルフコンペ

2015年7月24日(金)
浦和ゴルフ倶楽部
参加者；13名

優勝　72期 佐藤禎子氏
2位　67期 安田康次氏
3位　61期 水嶋紀子氏

梅雨も明け、たいへん湿度の高い猛暑のなかのコンペになりました

次回は、秋～冬の会として、11月下旬に開催予定です。
ゴルフをされる皆さんはまだまだ大勢おられるものと思います。参加ご希望の皆さまは、ぜひ、同窓会事務局までご連絡ください！

白川 正広(76期)記

今井浩三さん(第68期)が紫綬褒章を受章

今井浩三さん(第68期)が平成25年秋の叙勲で長年にわたる医学研究の功績が認められ紫綬褒章を受章されました。
紫綬褒章は「学術、芸術上の発明、改良、創作に関して実績の著しい者」に与えられる褒章です。最近では二上達也さん（第52期）が平成４年に受章しています。
氏は1948年函館市生まれ。1972年札幌医科大学医学部卒業。1985年英国ケンブリッジ大、セザール・ミルシュタイン教授（1984年ノーベル賞受賞者）に師事。ここで二重特異性モノクローナル抗体を世界で最初に作成。これによりＴ細胞（ＣＤ3）ならびにＣＥＡに対する二重結合性を有する抗体の作成に成功するなど、癌免疫分野、癌分子病態分野について研究し特筆するべき業績を上げてきた。2004年札幌医科大学第９代学長。2010年から東京大学医科学研究所付属病院病院長を歴任。2013年秋の叙勲で紫綬褒章を受章した。

木戸正文(68期)記

函中創立120周年記念 卒業生によるジャズライブのお知らせ

10/17　13:30 ～
北斗の星に願いを コンサート

場所：新函館北斗駅（新駅見学無料）

10/18　17:00～
ジャズと日本酒の出逢い(仮)コンサート

場所：ベルラ(元町FMいるかビル)
チケット：¥8500（100枚限定）

メンバー（両日共）　加茂紀子（piano）76期、NY在住
米木康志（bass）73期
トム・ベイカー（drums）
ゲスト：徳永ふさ子（vocal）

ー伝統受け継ぐ白楊魂 未来へそして世界へー

函中創立120周年記念式典

2015年10月17日(土) AM11:00～
函館中部高等学校　体育館

祝賀会　同日PM1:00～五島軒
(会費5000円　事前要予約)

会員短信

平成26年8月以降の会費の払込票と返信はがきのメッセージから

●**風間　憲吉（S10年卒37期）**
高齢と車椅子生活で静かに過しております。東京白楊だよりを拝見して函中時代をなつかしんでおります。白楊ヶ丘同窓会の益々のご発展を祈ります。

●**今井　清（S13年卒40期）**
しばらくぶりに諸兄にお会いするのを楽しみにしております。

●**毛利　啓次（S14年卒41期）**
足腰が弱くなり外出ままならず、残念ですが欠席します。
ポプラ並木のあった広い校庭で野球をやったり、テニスコートでプレイしたりした函中時代もいい思い出となり、懐かしいです。

●**井上　宏（S16年卒43期）**
高齢の為、自由歩行出来ませんので、残念ながら欠席させて頂きます。皆様の益々の御発展を祈念いたします。

●**日野　文麿（S17年卒44期）**
卒寿を迎え、足腰が弱り遠出が無理になりました。同期の友も大分亡くなり、心細くなってきております。
小生、水墨画・謡曲・詩吟・プールの歩行などして体力低下を防いでおります。盛会を祈っております。

●**堀田　善和（S20年卒47期）**
せっかくのご案内頂きましたが欠席させて頂きます。悪しからず。大会のご盛会を祈り上げます。

●**山科　喜一（S20年卒48期）**
先約があり、欠席します。

●**水上　芳郎（S21-22年卒49-50期）**
いつも欠席ですみません。ドセの息子です。弟(秀郎)は亡くなりましたが、私はまだ生きています。皆様の御健康を祈ります‥。

●**大河原　修（S21-22年卒49-50期）**
御案内有難うございました。御盛会を祈って居ります。出席出来ず申し訳ありません。

●**網塚　聰（S23-24年卒51期）**
今年も7月から8月末にかけて函館で過ごし、一旦、毛呂山へ戻った後、「風の盆」を充分に楽しんで広島へ帰りました。

●**磯部　輝彦（S23-24年卒51期）**
評議員の三國さん、何時も連絡有難う御座います。あずまし会の幹事を終えられても、未だ評議員の仕事でご苦労様でございます。
当方寄る年波で目も耳も色々な所にガタが来ていますが、内職には特に大きな問題はなく、ボケになる恐怖に堪え乍らピンコロリを願っております。

●**岡田　潤（S23-24年卒51期）**
妻を亡くして近く一年を迎えます。激変の生活に慣れて来ましたが未だ落ち着きません。
家にいると心が不安定ですので、できるだけ外にでて人と会って話をしたり、食事をしたりして気分転換を図っております。夏に函館に行って変化に一寸驚いています。
これからも軟式テニスで走り、船で釣りをし、美味しい食物を求めて出歩くようにしようと思ってます。毎回幹事にお世話になりっぱなしですが多謝。

●**奥平　康弘（S23-24年卒51期）**
年並に体力は落ちていますが、相変わらず執筆と講演を続けております。

●**菊池　禮（S23-24年卒51期）**
今日東京白楊だより頂きました。いつも有り難うございます。実は毎日のように貰っていた南さんからのメールが来ないので病気でもされたのかなと思い、三国さんにお尋ねしてみようと思って居たところでした。早速開いてみると訃報の欄が目に入り、いよいようなったかと思ってみると南さんの名前があり驚きました。去年はスイスに行ってきたとのメールを頂き羨ましいなと思って居たのです。
昨年は亡くなられた方が多いですね。それも皆さん春に亡くなっているのは何故かな。84歳ともなれば元気でいることが奇跡？と思いますが、我々の世代は食糧不足で体は鍛えられているので長生きが多いのだと思って居ます。亡くなられた方には心からご冥福を祈ります。

●**佐藤　充（S23-24年卒51期）**
近頃めっきり体力気力とも衰えたものだと感じています。連れ合いの介護をして8年目になり、介護でのすることは年々増えています。（要介護5）。週2デイサービスを利用させてもらっています。その日の朝は準備のためヘルパーをお願いしています。ヘルパーから「お年なのに料理や家事なども本当によくやっていますね」とおだてられながらなんとかやってます。何年も前から特別養護老人ホーム数ヶ所に入居申込みをしていますが、いまだにＯＫになりません。もしＯＫになったら‥‥やっぱりわが家で面倒を見て行く方がいいのかなと思ったりしています。

●**品川　孝次（S23-24年卒51期）**
何とか元気で暮らしておりますが、残念ながら今回も出席いたし兼ねます。皆様に宜しくお伝え下さい。

●**高村　亮一（S23-24年卒51期）**
お見舞いのメモをいただき感謝しています。
諸兄におかれては十二分に行動に目を配り、更に長命たらんことを祈ります。

●**三浦　庸夫（S23-24年卒51期）**
最近まで手首や首筋の痛みにはハップで手当て中、又段差恐怖症で何とか一生懸命ウォーキングで足・腰の強化にこれ努めております。

●**三谷　瑞穂（S23-24年卒51期）**
何時もお世話様深謝します。この度転居しました。湘南海岸にほど近い、とても環境のよいところで、長男一家も目と鼻の先に住んでいます。お暇な折がございましたら是非お立ち寄り下さい。

●**山田　吾市（S23-24年卒51期）**
いつも御案内をいただき誠にありがとうございます。東京白楊だよりを楽しく読ませていただきました。開業医をやめてから8年目になりましたが、唯一ウォーキングは雨さえなければ毎日実行しております。病気は増えておりますが元気で頑張っております。

●**山田　隆（S23-24年卒51期）**
リハビリを続けていますが、まだまだ左半身(特に脚、腕など)が不自由で苦労しています。全く情けない限りです。

●**進藤　照子（S26年卒53期）**
親睦大会のご案内ありがとうございました。大変残念ですが、体調不良で出席できません。幹事の皆様のご努力有難く存じて居ります。ご参加の方々によろしくご伝言下さい。

●**折居　忠夫（S26年卒53期）**
折居クリニックも名誉院長となり、出席可能となりました。岐阜大学で行っていた研究は定年後も継続しています。

●**阿部　彰子（S26年卒53期）**
丈夫な体に感謝しながら、今年も元気に過しております。
出席は出来ませんが、親睦会の御盛会をお祈り申し上げます。

●**漆崎　雄一（S26年卒53期）**
残念ですが、今年も欠席します。「多焦点眼内レンズ」で両眼を手術。今は外出も控えての生活です。幹事役の皆さん、いつもご苦労様です。

●**新谷　義克（S26年卒53期）**
都合により欠席致します。

●**遠藤　宏（S27年卒54期）**
年相応に元気です。人間の寿命とコンニャクの裏表はわからないもの。お互い健康には留意したいものです。いつも役員・幹事の皆様、本当にご苦労様です。

●**武政　麗子（S27年卒54期）**
お変わりなくとても嬉しく思います。足が悪くなんとか元気でいます。皆様によろしくお伝え下さいませ。

●**松田　守正（S27年卒54期）**
ここ3年、5か所(高齢者デイサービス2 デイケア1 通所リハビリ1 高次脳機能障害者1)ボランティア、支援活動し年中無休です。尚リハビリ施設利用者の1人、世界的大学月刊誌編集長と介助(脳出血の為要介護中)で知り合い、80才にして2013年11月作家としてデビューし、2014年9月第2作発表。頑張っています。

●**納代　鉄也（S21年入54期）**
旧制函館中学校へ入学（昭和21年）昭和25年西高へ。函中（中部高校）へ4年間通学していました。

●**宇野　尚（S27年卒54期）**
私は昭和27年卒（54期）です。昨年傘寿を迎えました。東京と大阪支部両方に入っていましたが、遠出が億劫になり、東京は昨年退会届を出しました。でも友人から母校の便りが来るとても懐かしい。古都に住んで約40年。家内と2人暮らし。息子2人は東京住まいです。奈良は「まほろば」住い街です。

●**岡本　大三郎（S27年卒54期）**
関西支部もなんとか頑張ってやって居ります。盛会をお祈りします。

●**金谷　稔（S27年卒54期）**
御盛会を祈念！

●**北原　徹（S27年卒54期）**
当日は検査通院が必要で、残念ながら欠席致します。28会が解散し、莫逆の友も廃刊になるとは如何にも残念です。高齢者の年代の28会を中心とする高齢者からの貴重な意見を取り込むことが、白楊ヶ同窓会には必要です。この際、白楊ヶ丘同窓会にこのことを理解させる話し合いを強力に進めることが必要です。

●**児玉　道子（S27年卒54期）**
ご連絡ありがとうございます。当日所用あり、欠席させて頂きます。

●**小宮山恵三郎（S27年卒54期）**
予定があり欠席します。御盛会をお祈りいたします。

●**佐藤　堅一（S27年卒54期）**
同窓会の盛会を祈念しております。高齢のため、何とか一日を元気にとつとめております。連絡ありがとうございます。御活躍下さい。

●**宮崎　照子（S27年卒54期）**
ご丁寧にご案内有難うございます。残念ながら不都合の為、欠席させて頂きます。盛会をお祈り申し上げます。

●**髙木　幸子（S28年卒55期）**
東京白楊だより、ありがとうございました。

●**桃井　光子（S28年卒55期）**
満80才を過ぎてから、何かと外出するのがおっくうになりました。申訳ございませんが、欠席させていただきます。皆様によろしくお伝え下さいませ。

●**加藤　正秋（S29年卒56期）**
平26・9・26福禄会の「傘寿を祝う会」が函館湯ノ川花びしで行われ、64名の参加のもと、なつかしい出会いなど思い出に残る集会を楽しんだ。この集会をもって、全体会合は終了とすることとした。

●**塚本　弘子（S29年卒56期）**
長かった介護も終り、これからの一人の生活を模索中です。
9月末函館で同期会があり同窓会にも出席出来ました。会費5000円。五島軒のお料理と生の民謡演奏など楽しい会でした。

●**沼崎　茂子（S29年卒56期）**
御連絡ありがとうございました。出席出来ず失礼しております。一日一日を大切にすごす事が出来ます事、元気に日常生活をおくれます事に感謝しながらすごしております。

●**根上　義昭（S29年卒56期）**
身障者になりましたので外出を控えております。何とか元気にしております。

●**南　卓夫（S29年卒56期）**
相変わらず、市森林自然公園内で幼稚園児 保育園児等の自然体験案内で体を動かし、元気にしております。欠席しますが御盛会をお祈り致します。

●**五十嵐克至（S31年卒58期）**
体調が悪い為欠席いたします。大会がご盛況であります様お祈りいたします。

●**角本陽一郎（S31年卒58期）**
申しわけありませんが都合により欠席いたします。

●**唐沢フミ子（S31年卒58期）**
「東京白楊だより」ありがとうございます。ご盛会お祈り致します。

●**近藤　好介（S31年卒58期）**
ご案内戴き、ありがとうございます。都合がつかず、今年も残念乍ら欠席です。盛会を祈念します。
「東京白楊だより」一気に刷新しましたネ。内容も充実。編集者お疲れ様です。

●**柴田　親（S31年卒58期）**
体調不良につき欠席させて頂きます。

●**坪田　憲俊（S31年卒58期）**
御苦労様です。出席します。

●**能戸　仟（S31年卒58期）**
幹事役御苦労様です。貴会の益々の発展を祈念しております。

●**松岡　悟（S31年卒58期）**
御参会の皆様によろしくお伝え下さい。

●**松下　俊一（S31年卒58期）**
今回も調整つかず、申し訳ないですが欠席です。ご盛会を祈っております。

●**石橋　俊二（S46年卒73期）**
いつもご連絡をありがとうございます。ブラジルまで出掛ける気力・体力が羨ましいです。「白楊だより」がカラーになって、高級感が半端ないですね。編集責任者としての活躍に期待しています。

●**荻原　令子（S46年卒73期）**
現在、母の介護の為、函館滞在中です。残念ですが、欠席とさせていただきます。

●**菅原　聡（S46年卒73期）**
関西在住ですが、東京で用向がある為、その足で顔を出したいと思っております。大変規模の大きい会ですので、物見がてら、皆様の元気そうな様子拝見させてもらいます。

●**長久保　敏雄（S46年卒73期）**
記事、拝見しました。同期の元気な姿はうれしいものです。私も年一回、同期の仲間と同窓会旅行を楽しんでおります。元気が何よりです。

●**小栗　純子（S48年卒75期）**
30年以上働いてきた某航空会社を2010年大晦日に年齢基準で整理解雇（パイロット81名 客室乗務員84名）されました。2012年からすでに2000名以上の新人が採用されています。現在客室乗務員は71名の原告団で最高裁に上告中です。
お忙しい中、いつもご連絡をありがとうございます。

●**掛川　祐子（S48年卒75期）**
東京白楊だより楽しく拝見いたしました。表紙は本当に懐かしい丸井デパートですね。実家が近いこともあり、よく利用させていただきました。又、今夏はじめて還暦の同期会に参加させていただき素晴らしい時を過ごすことができ感激いたしました。

●**桑原　洋子（S48年卒75期）**
定年するはずでしたが、まだしつこく仕事しています。皆様が元気で頑張っているんだなーと。今年は出席したかったけれども用があって…。また来年会えればと思います。

●**富田　剛（S48年卒75期）**
申し訳ございませんが欠席とさせていただきます。盛会となることを祈念申し上げます。

●**吉田　亮（S62年卒89期）**
別件のため今回は出席できませんが、一度出席してみたいと存じます。

●**近藤　展美（H6年卒96期）**
公私ともに環境が変わりお手伝いすることが難しい状況です。もう少し時間に余裕ができたら、また色々参加させて頂きます。

●**安間　展（H6年卒96期）**
ご案内ありがとうございます。お世話になっている方が中部高校の先輩で、すすめられたこともあり出席させていただくことにしました。よろしくお願い致します。

●**長尾　麻里菜（H19年卒109期）**
毎年のお招き誠に有難うございます。例年多くの出席者が一堂に会する良い機会にたえつづけに参加出来ず心苦しいです。来年も会誌と共に親睦大会開催の吉報が届くのを楽しみにしております。

●**金井　由仁（H24年卒114期）**
遅くなり申し訳ありませんでした。部活の大会と重なり欠席することにしました。宜しくお願いします。

●**寺邑　啓太（H26年卒116期）**
皆様のますますのご健勝を御祈り致します。

H27年度評議会報告

日時；平成27年4月21日（火）18：30～19：30
場所；インテリジェントロビー・ルコ D2会議室
新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル
出席者；33名

安田支部長より「本年度は、母校の創立120周年でもあり大先輩から最近の卒業生まで幅広く集い、更に活力にあふれた魅力ある同窓会の場となるよう努める所存であり、各位の一層のご支援とご協力をお願いする」との挨拶。以下の議案について配布資料を基に審議し全議案とも承認された。

(1) 平成26年度事業報告
親睦大会、東京白楊だより、ホームページ、渉外活動、総務等。
親睦大会は、84期の企画により「函館つながり」をテーマに実施され180名が参加された。

(2) 平成26年度収支決算報告
収入は年会費、大会費とも予算に対し未達であったが、昨年度に続き会報印刷費、会報発送方法の変更、会合会議費等の低減により、差引収支残は198,999円の黒字であった。
真船監事による監査報告確認。

(3) 平成27年度事業計画案
親睦大会、東京白楊だより発行、ホームページ、渉外活動、同好会活動、総務等。
今年度親睦大会は85期が企画、「今こそ、函館!」をテーマに、講演者：冨樫森氏、聞き手：木村建哉（きむらたつや）氏を予定。

(4) 平成27年度収支予算案
昨年度の実績を参考に予算を編成、会報は全頁カラー、メール便の廃止により発送方法を再検討する。

(5) 役員異動の件
江原氏(84期)が理事に選任され、米田氏(79期)、廣田氏(82期)が退任された。

引続き、同会場において会費制で懇親会を実施した。

村田秀樹（72期）記

平成26年度収支実績および平成27年度予算単位：円）

		26年度実績	27年度予算
収入	年会費収入	1,608,000	1,650,000
	大会費収入	1,328,000	1,450,000
	寄付金収入	363,509	300,000
	会報広告収入	75,000	100,000
	その他	203	0
	合計	3,374,712	3,500,000
支出	大会関連費用	1,457,654	1,500,000
	会報関連費用	779,979	1,010,000
	諸会議費	199,795	240,000
	本部派遣費	214,667	220,000
	通信運搬費	175,882	180,000
	その他の運営費	347,736	330,000
	予備費		20,000
	合計	3,175,713	3,500,000
差引収支残		198,999	0
次期繰越剰余金		5,417,133	5,417,133

ご寄付御礼

昨年度は21名の方からご寄付を頂戴いたしました。ここにお名前を掲載し、御礼に代えさせて頂きます。（敬称略 アイウエオ順）

昭10年卒 37期　風間健吉
昭14年卒 41期　毛利啓次
昭15年卒 42期　神山茂郎
昭18年卒 45期　河田陽吉/田沼修二
昭19年卒 46期　岩沢弥之助/多和田昭二/渡辺保二
昭20年卒 47期　堀田善和
昭20年卒 48期　松本養三
昭24年卒 51期　小野寺吉彦/平野拓夫/三国比左男/山田吾市
昭25年卒 52期　井上 稔/岡川伸/長島 康/二上達也
昭26年卒 53期　安部彰子/折居忠夫/新谷義克/町谷洋
昭27年卒 54期　遠藤 宏/金谷 稔/高橋邦年/鳥居久靖
昭21年入 54期　松田守正
昭32年卒 59期　新田正勝
昭34年卒 61期　金子公彦/菊池紀邦
昭36年卒 63期　土橋道子
昭42年卒 69期　梅田五郎/梅田やよい/奥野政博/斉藤裕子/佐藤一廣
昭51年卒 78期　島津路郎
昭57年卒 84期　かにめし販売収益

誠に残念なことに、年会費の納入者数が年々減少しており、当支部の財政は、未だにひ弱な状態です。本年も引き続き皆様からのご寄付を募っております。お志のある方はご協力をお願い申し上げます。

取り扱い金融機関：郵便局
口座番号：00190-1-124291
白楊ヶ丘同窓会東京支部
郵便局備え付けの用紙、または会報に同封の払込票をご利用ください。

85期(昭和58年卒)の皆さん、半蔵門に全員集合ですよ！

裏表紙にもありますとおり、今年は私たちが幹事の期です。
懐かしい方が例年よりもたくさん集まりますので、是非ご参加下さい。

とき：11月14日（土）12時～15時
ところ：ホテル　グランドアーク半蔵門（国立劇場隣り）

東京白楊だより38号
■発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
■発行人 安田康次（67期）
■編集責任者 山田 朗（73期）
■発行日 平成27年9月12日
【東京事務所】〒338-0012 さいたま市中央区大戸2-19-10 安田康次方 048-852-0988

白楊ヶ丘同窓会 東京支部 第39回親睦大会のご案内

テーマは…「今こそ、函館！」

今年から懇親会は全員着席の予定!

とき 2015年11月14日(土) 12:00開演(11:30受付開始)

ところ グランドアーク半蔵門 **参加費** 8000円 学生無料 (ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

講演会 「映画監督が語る被写体としての函館」冨樫森氏 (インタビュアー 木村達哉氏) 12:00～12:45 **懇親会** 13:00～15:00

グランドアーク半蔵門 ご案内

〒102-0092東京都千代田区隼町1番1号 tel.03-3288-1628

ACCESS

- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」1番出口より徒歩2分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」3b出口より徒歩3分
  ※3b出口はエスカレーター部分が1番出口より長く、荷物がある場合に便利です
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」駅エレベーターより徒歩7分
- 東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口より徒歩7分
- JR「四ツ谷駅」より徒歩15分
- 東京駅（丸の内南口タクシー乗り場）よりタクシーにて約10分

詳しくは … http://www.grandarc.com/

今年の親睦大会は一昨年及び昨年と同様、皇居の杜を臨むホテル「グランドアーク半蔵門」にて開催いたします。

今年は、昭和58年卒業の85期生が幹事を務めます。

今年のテーマは、「今こそ、函館！」です。私たちが高校生活を過ごした頃と比べると寂れてしまったなぁという感じの否めない函館ですが、母校の120周年に加え、来年は新幹線も開業することですし、今一度元気になってもらいたい、再び脚光を浴びてもらいたい、そういう気持ちを込めて、「今こそ、函館！」をテーマとしました。

恒例のイベントでは、映画監督の冨樫森氏をお招きします。冨樫監督は、函館を舞台にした映画『星に願いを。』（2003年公開。竹内結子・吉沢悠主演）のメガホンをとられました。『星に願いを。』では、函館でオールロケが敢行されており、懐かしい函館の風景が場面として登場します。そのような場面もご紹介しながら、映画学が専門の木村建哉成城大学准教授（85期生）がインタビューする形で、貴重な、しかも楽しいお話を伺えることと思います。ご期待下さい。

函館の風景に郷愁を覚えながらも、懐かしさに浸るだけではなく、現在、そして将来の函館にどう繋げていけるのか、出席者の皆さんが考えるきっかけにしていただければと思います。そして、「今こそ、函館！」だと言えるようになればと思います。

是非皆様お誘い合わせの上、お越し下さい。

（85期評議員及び同窓会スタッフ一同）

講師プロフィール

冨樫 森（とがし しん）

映画監督。

助監督として相米慎二、井筒和幸、中原俊らに師事。相米慎二総監督『かわいいひと』(1998)の「EPISODE II」で監督デビュー。

代表作に、『非・バランス』(2001年。ヨコハマ映画祭及び日本映画プロフェッショナル大賞で新人監督賞受賞)、『ごめん』(2002年)、『鉄人28号』(2005年)、『天使の卵』(2006年)、『あの空をおぼえてる』(2008年)、『おしん』(2013年。中国金鶏百花映画祭国際映画部門最優秀作品賞、山路ふみ子映画賞各受賞)等。

編集後記

函館に帰省した際、必ず立ち寄る喫茶店があります。函館山ロープウェーの坂の途中にあり、洗練されたスウィーツが絶品です。函館の街並みは、少年時代と様変わりしていますが、新たな楽しみも続々と生まれて来ています。それを散歩しながら探すのが帰省の楽しみの一つです。会報への記事に函館での新たな気づきなど、お待ちしております。

（朝緑高太 99期）

120周年記念と言う節目に会報編集を無事に終えた事は喜びひとしおです。記念特集号と言っても一つの通過点でしかありませんが、激動の時代を歩んできた諸先輩の歴史を再認識した次第です

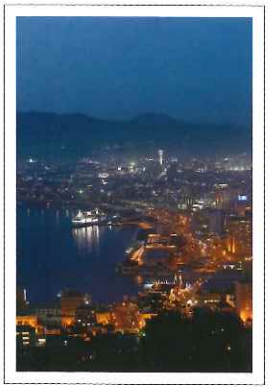
（山田朗 73期）

表紙写真

元町カトリック教会

最初の木造の教会堂は、明治10年（1877）に創建。現存は大正13年（1924）に再建。函中とほぼ同時代に歴史を紡いできた。大聖堂内の祭壇はローマ法王から贈られたもの。

写真提供 73期 山田 朗



函館の写真募集中！

kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp

事務局までお送りください。

紙面デザイン…ミライデザイン／イシバシミキコ